

シモーヌ・ヴェーユの諸作品における語彙

(その1)

村上吉男

ジャック・カポーは、「シモーヌ・ヴェーユの思想は卓越した意識のドラマ以外の何ものでもなく、その発展は際立った一貫性にある」¹⁾と語っている。一貫する思想とは、思想なるものが退化し、また、ジャック・カポーの指摘のように、発展するものであろうとも、シモーヌ・ヴェーユにおいて、終始問題にされていた思考をさすとみることができる。

この思想(思考)が何であるのかを、今問う必要はない。なぜなら、そのことは、私がこれから試みようとする作業の完了後、明確になってくると思うからである。ところで、その思想(思考)の組立の中心に位置しているのは、ひとつに名詞であり、思想(思考)はそれを欠かせないとすれば、どのような名詞(単語)が思想の一貫性を充足させることになるかと問う方が、その作業に適うものなのである。したがって、私がこれから試みようとする作業は、どのような単語が思想の一貫性をあらわすのかという際の、この単語を集計した資料(図表)をつくることにある。今回はその最初のものである。集計される単語は、終始問題にされていた思考(思想)であってみれば、何よりもまず、シモーヌ・ヴェーユの諸作品に多くみることのできる同じ単語でなくてはならないだろう。圧倒的な頻度をもつそれは、何んといっても、哲学的、宗教的、心理的・生理的とみなし得る単語である。この代表的な単語は、Bien, Mal, Beauté, Nature, Nécessité, Dieu, Amour, Pensée, Attention などであろう。これらの単語(またのちに、そして次回以降に記す単語も)は、むしろ、おたがいに関連性をもっているのもそのことを抜きに語れなくさせるのだが、同時に、数多く出てくるひとつの単語を、彼女の初期の作品から丹念に追いかけていっただけでも、一貫性に与ることになる思想に展開させられるを感じ取らせ得るかもしれないのである。つまり、何らかの単語が諸作品に何度となく使用させられることは、何より、シモーヌ・ヴェーユの関心がそれに向けられて、彼女が言及せ

ざるを得ない機会を多くもつに至ったということの証左になるのであり、その意味において、彼女の思想が一貫性を保持できるとみなす場合もあるというわけである。私は、ジャック・カポーの言をまずこのように理解することにしてはいる(ただ、彼女の関心の向けられ方が、数多く出てくる単語にあって、ときとして、同じ内容を含む訳語になりながらも、決して、同じ単語(フランス語)で記されてこないということがあるから注意しておかなければならない。たとえば, monde と univers, esprit と âme と cœur, corps と chair, rapport と relation と liaison, nécessité と nécessaire などがその類いのものである。これらには、彼女の諸作品ごとにどちらかの単語が選択されることになっている以上、辞書だけではない、彼女自身の使用する独得な意味がこめられていると思われる。それを確かめる必要がある)。

しかし、それらの単語について、今問うこともしない。私がここでひろい出す単語は、新潟大学教養部研究紀要第16集の「カ」に関するノート」に提出しておいた単語「抑圧」(Oppression)「革命」(Révolution)「神」(Dieu)、同第18集の「シモーヌ・ヴェーユの三作品における精神的能力と感受性」に問うた単語「感情」(Sentiment)「感受性」(Sensibilité)、その他(「不幸」(Malheur)「労働」(Travail)「疲労」(Fatigue))であり、彼女の諸作品におけるその頻度が記される図表を作成することである。これによって、私は何をみようとしているのであろうか。前者の単語の集計結果において、まず、同第16集にも取り上げておいたところの、彼女に付け加えられた社会思想家、宗教思想家なる肩書が正しいかどうかということに対して、何らかの結語を見出してよいときではないかが問われてくる。ただし、「抑圧」「革命」という単語、「神」という単語がそれぞれ、彼女の前半生と後半生に数多く用いられるそのことのみをもって、即座に社会・宗教思想家とみなしてしまうのは、生涯全体にわたっての

ことをさすのでないかぎり、たぶんに危険が伴う見方になるが（この点で何らかの結語を見出すと先に語ったことに関していえば、あらゆる同じ単語を網羅させておかないかぎり、やはり早急な結論の提出も危険であるにちがいないだろう。それゆえ、最終的な結論を下すのは、もっとのちのことでよいだろう）、それでもこれらの単語自体が暗示することから、それらが肩書の一応の目安になり得ると判断させられるようにみえてくると捉えることも間違いとはいえないのだ。しかし、この肩書のことが生涯全体に通じる思想、つまり、思想の一貫性という立場から捉えられようとする場合当然だが、そこでは、肩書も立場もまた見失われるのである²⁾。なぜなら、たとえば、「抑圧」や「革命」という単語が彼女の後半生にそれほど多く記されることにならないならば、思想の一貫性の立場をもつことも、彼女を社会思想家とみてしまうこともできなくなるからである（一時期の特徴をもって、彼女の全体の特徴とみなして理解することだけはつつまなくてはならない）。とまれ、ひとまずは、思想の一貫性という立場を堅持させながら、そのような結果が以下の図表に得られるのかどうかをみておく必要があるということである。何より、それを実証するのは今のところこの図表に委ねられるしかないわけだから、この結果の如何によって、社会思想家なる肩書を否定してしまうことも可能になるといえるのである（「神」という単語においても、同じことがいえよう）。そうすると、思想の一貫性という立場に立って、それを明確にしそのような単語を選び出すことが、ここに、要求されてくることになるだろう。そのいくつかは、「不幸」「感情」「感受性」「労働」「疲労」という単語なのである。そ

して、これらをはじめとする単語こそ、私が従来から主張してきたことにそった単語であるのだ。ここではその主張を繰返さないが³⁾、しかし、それらの単語の提示と説明から、少なくとも、この主張に誤りのないことがある程度明らかになると思っているのである⁴⁾。

「抑圧」(Oppression)、「革命」(Révolution)、「神」(Dieu)⁵⁾、「不幸」(Malheur)⁶⁾、「感情」(Sentiment)⁷⁾、「感受性」(Sensibilité)、「労働」(Travail)⁸⁾、「疲労」(Fatigue)の単語の頻度を図表に書き込む際、私は、新潟大学教養部研究紀要第16集の図表を再度利用することにしたい。ただし、そのとき参考にした Michel Thiout の「Essai de bibliographie des écrits de Simone Weil」(Lettres modernes)、Jacques Cabaud の「L'expérience vécue de Simone Weil」(plon)とその邦訳「シモーヌ・ヴェーユ伝」の〈bibliographie〉(書誌)、「シモーヌ・ヴェーユ著作集V」の年譜・書誌に加え、今回は、Miklos vetö の「La métaphysique religieuse de Simone Weil」(librairie philosophique)、J-M. Perrin などによる「Réponses aux questions de Simone Weil」(Aubier)の〈chronologie〉(年譜)を活用し、さらに、その図表〔B〕(新聞・雑誌への投稿やその他が単行本に組み入れられ、それらの発表の日付けがおよそ明らかになっている年代順表)と〔C〕(単行本に組み入れられているが、発表日付け不詳で、私的推測を試みるしかない論稿その他の年代順表)とをひとまとめにして、一新を期したつもりである(しかし、初出機関の項目は省略した。また、複数の新たな作品が含まれてあるし、「ノート」は書かれたであろう時期に分けて取り扱うことにした)。

作品の発表年代順は以下の通りである。

[A]

	年代	作 品 名	日 付	単行本タイトル 略号文字
1	1920	「火の妖精たち」(Conte des lutins du feu)		<VS> pp. 37-40
2	1926	「シャルルマーニュ祭りの会食時に読まれた詩」 (Vers lus au goûter de la Saint-CHARLEMAGNE)	1月	<VS> pp. 16-20

	年代	作品名	日付	単行本タイトル 略号文字
3		「金持ちの若い娘に」(A une jeune fille riche) ⁹⁾		<VS> pp. 13-15
4		「ある一日に」(A un jour)		<VS> pp. 25-30
5	1930	「デカルトにおける科学と知覚」 (Science et perception dans Descartes)		<SS> pp. 9-99
6	1931	「ある同志への手紙」(Lettre à un camarade) ¹⁰⁾		<SS> pp. 103-104
7	1932	「ドイツ革命の条件。レオ・トロツキー著『そして今は』」 (Conditions d'une révolution allemande. «Et maintenant?», par Léon TROTSKY)	8月	<EHP> pp. 117-123
8		「ドイツの第一印象」 (Premières impressions d'Allemagne)	8月25日	<EHP> pp. 124-125
9		「待機するドイツ(8月9月の印象)」 (L'Allemagne en attente (Impressions d'août et septembre))	10月25日	<EHP> pp. 126-142
10		待機するドイツ(8月9月の印象)[続] (L'Allemagne en attente (Impressions d'août et septembre) [suite])	11月25日	
11		「ベルリン交通ストライキの教訓」 (Les enseignements de la grève des transports à Berlin)	11月25日	<EHP> pp. 143-144 ¹¹⁾
12		「ドイツの選挙」(Les élections allemandes)	11月25日	<EHP> pp. 144-145 ¹²⁾
13		「ドイツにおける状況〔I〕」 (La situation en Allemagne [I])	12月4日	<EHP> pp. 146-151
14		「ドイツにおける状況。ヒットラーの運動〔II〕」 (La situation en Allemagne. Le mouvement hitlérien [II])	12月18日	<EHP> pp. 151-157
15		「数学教育」 (L'enseignement des mathématiques)		<SS> pp. 105-109
16	1933	「ドイツにおける状況。ドイツ改良主義〔III〕」 (La situation en Allemagne. Le réformisme allemand [III])	1月8日	<EHP> pp. 158-163
17		「ドイツにおける状況。ドイツ改良主義(続)〔IV〕」 (La situation en Allemagne. Le réformisme allemand (suite) [IV])	1月15日	<EHP> pp. 164-168
18		「ドイツにおける状況。共産主義運動〔V〕」 (La situation en Allemagne. Le mouvement communiste [V])	1月29日	<EHP> pp. 168-172
19		「ドイツにおける状況。共産主義運動(続)〔VI〕」 (La situation en Allemagne. Le mouvement communiste (suite) [VI])	2月5日	<EHP> pp. 172-175
20		「ドイツにおける状況。ドイツの共産主義運動〔VII〕」 (La situation en Allemagne. Le mouvement communiste allemand [VII])	2月12日	<EHP> pp. 175-179

	年代	作品名	日付	単行本タイトル 略号文字
21		「ドイツにおける状況。ドイツの共産主義運動(続)〔Ⅷ〕」 (La situation en Allemagne. Le mouvement communiste allemand (suite)〔Ⅷ〕)	2月19日	<EHP> pp. 179-185
22		「ドイツにおける状況」 (La situation en Allemagne)	2月25日	<EHP> pp. 386-389
23		「ドイツにおける状況。ドイツ共産主義(続)〔Ⅹ〕」 (La situation en Allemagne. Le communisme allemand (suite)〔Ⅹ〕)	2月26日	<EHP> pp. 186-189
24		「ドイツにおける状況。ドイツ共産党(完)〔Ⅹ〕」 (La situation en Allemagne. Le parti communiste allemand (fin)〔Ⅹ〕)	3月5日	<EHP> pp. 189-194
25		「テクノクラシー、ナチ主義、ソヴェト連邦、その他についての考察」(Réflexions concernant la technocratie, le national-socialisme, et quelques autres points)	3月	 pp. 39-44
26		「ドイツにおける状況について」 (Sur la situation en Allemagne)	4月9日	<EHP> pp. 195-196
27		「ドイツにおける状況について。M.O.R への回答についての覚書」(Sur la situation en Allemagne. Quelques remarques sur la réponse de la M. O. R)	5月7日	<EHP> pp.197-202 ¹³⁾
28		「世界政治のなかのソヴェト連邦の役割」 (Le rôle de l' U.R.S.S dans la politique mondiale)	7月23日	<EHP> pp. 203-208
29		「展望、わたしたちはプロレタリア革命に向っているか」 (Perspectives, Allons-nous vers la révolution prolétarienne)	8月25日	 pp. 9-38 ¹⁴⁾
30		「哲学講義」(Leçons de philosophie) ¹⁵⁾	10月	<LP> pp. 17-305
31		「戦争についての考察」(Réflexions sur la guerre)	11月	<EHP> pp. 229-239
32		「レーニン著『唯物論と経験批判論』について」 (Sur le livre de LENINE «Matérialisme et Empirio-criticisme»)	11月	 pp. 45-54 ¹⁶⁾
33		「革命戦争についての断片」 (Fragment sur la guerre révolutionnaire)	12月	<EHP> pp. 240-241
34		「ボイコットについてさらに一言(断片)」 (Encore quelques mots sur le boycottage (fragments))	12月 ¹⁷⁾	<EHP> pp. 242-243
35		「断片」(Fragments)		 pp. 163-177 ¹⁸⁾
36	1934	「十四世紀フィレンツェにおけるプロレタリアの蜂起」 (Un soulèvement prolétarien à Florence au XIV ^e siècle)	3月	<EHP> pp. 85-101
37		「X氏宛の手紙の断片」(Fragment de lettre à X)	春	<CO> pp. 33-34
38		「自由と社会的抑圧との諸原因についての考察」 (Réflexions sur les causes de la liberté et de l'oppression sociale)		 pp. 55-162 ¹⁹⁾
39		「服従と自由についての省察」 (Méditation sur l'obéissance et la liberté)		 pp. 186-193

	年 代	作 品 名	日 付	単行本タイトル 略号文字
40		「革命と進歩との観念の批判的検討」 (Examen critique des idées de révolution et de progrès)		 pp. 178-185
41		「一女生徒への手紙」(Lettre à une élève)	12月	<CO> pp. 23-27
42		「工場日記」(Journal d'Usine)	12月4日 ²⁰⁾	<CO> pp. 35-108
43	1935	「テヴノン夫人宛の3通の手紙」 (Trois lettres à Albertine THEVENON)	1月	<CO> pp. 15-22
44		「ボリス・スヴァリーヌへの手紙」 (Lettre à Boris SOUVARINE)	4月12日	<CO> pp. 29-31
45		「アランの手紙への回答」 (Réponse à une lettre d'ALAIN)		<SS> pp. 111-116
46		「断片」(Fragments) ²¹⁾		<CO> pp. 109-124
47	1936	「M. ベルナルへの手紙または、ある技師長への手紙 〔I〕」(Lettre à M. BERNARD, ou Lettre à un ingénieur directeur d'Usine [I])	1月13日	<CO> pp. 125-132
48		「M. ベルナルへの手紙〔II〕」 (Lettre à M. BERNARD [II])	1月31日	<CO> pp. 132-135
49		「M. ベルナルへの手紙〔III〕」 (Lettre à M. BERNARD [III])	3月3日	<CO> pp. 135-143
50		「M. ベルナルへの手紙〔IV〕」 (Lettre à M. BERNARD [IV])	3月16日	<CO> pp. 143-147
51		「M. ベルナルへの手紙〔V〕」 (Lettre à M. BERNARD [V])	3月30日	<CO> pp. 147-149
52		「M. ベルナルへの手紙〔VI〕」 (Lettre à M. BERNARD [VI])	4月	<CO> pp. 149-152
53		「M. ベルナルへの手紙〔VII〕」 (Lettre à M. BERNARD [VII])	4月	<CO> pp. 152-153
54		「M. ベルナルへの手紙〔VIII〕」 (Lettre à M. BERNARD [VIII])	4月末 ²²⁾	<CO> pp. 153-154
55		「M. ベルナルへの手紙(断片)〔IX〕」 (Lettre à M. BERNARD (fragment) [IX])	5月初	<CO> pp. 155-156
56		「アンティゴネー」(ANTIGONE)	5月15日	<SG> pp. 57-62
57		「アランの問いに答える」 (Réponse à une question d'ALAIN)	5月16日	<EHP> pp. 244-247 ²³⁾
58		「名誉と国家の威信に関する諸考察」 (Quelques réflexions concernant l'honneur et la dignité nationale)	5月16日	<EHP> pp. 394-395
59		「エレクトル」(ELECTRE)	5月	<SG> pp. 63-72
60		「M. ベルナルへの手紙〔X〕」 (Lettre à M. BERNARD [X])	5月末 ²⁴⁾	<CO> pp. 156-157

	年代	作 品 名	日 付	単行本タイトル 略号文字
61		「一組合員への公開状」 (Lettre ouverte à un Syndiqué)	6月4日	<CO> pp. 175-179
62		「M. ベルナルへの手紙 [XI]」 (Lettre à M. BERNARD [XI])	6月10日	<CO> p. 157
63		「女子精練工の生活とストライキ」 (La vie et la grève des ouvrières métallos)	6月10日	<CO> pp. 161-174
64		「M. ベルナルへの手紙 [XII]」 (Lettre à M. BERNARD [XII])	6月後半	<CO> pp. 158-159
65		「スペイン日記」(Journal d'Espagne)	8月以降	<EHP> pp. 209-216
66		「軍靴を磨いておくべきか」 (Faut-il graisser les godillots?)	10月27日	<EHP> pp. 248-249
67		「中立政策と相互援助」 (La politique de neutralité et l'assistance mutuelle)	11月	<EHP> pp. 250-251
68		「一般化された不介入政策」 (Non-intervention généralisée)	11月	<EHP> pp. 252-255
69		「嫌われるための考察」(Réflexions pour déplaire)	11月	<EHP> pp. 218-219 ²⁵⁾
70		「断片」(Fragment)		<EHP> p. 217
71		「オーギュスト・ドトッフへの手紙」 (Lettre à Auguste DETCEUF)		<CO> pp. 181-184
72		「オーギュスト・ドトッフへの手紙」 (Lette à Auguste DETCEUF) ²⁶⁾		<CO> pp. 185-187
73	1937	「モロッコ、あるいは飛行制限に関する命令」 (Le Maroc ou la prescription en matière de vol)	2月10日	<EHP> pp. 331-335
74		<講演> 演題「合理化」(La rationalisation)	2月23日	<CO> pp. 215-232
75		「チュニジアの流血」(Le sang coule en Tunisie)	3月25日	<EHP> pp. 336-338
76		「トロイア戦争を繰り返すまい」 (Ne recommençons pas la guerre de Troie)	4月1日	<EHP> pp. 256-272
77		「トロイア戦争を繰り返すまい」〔続〕 (Ne recommençons pas la guerre de Troie [suite])	4月15日	
78		「一男生徒への手紙の断片」 (Fragment d'une lettre à un étudiant)	春	<SS> pp. 117-120
79		「ポール・ヴァレリーへの手紙」 (Lettre à Paul VALÉRY) ²⁷⁾	9月	
80		「労働の条件」(La condition ouvrière)	9月30日	<CO> pp. 233-239
81		「オーギュスト・ドトッフへの手紙」 (Lettre à Auguste DETCEUF)	12月15日	<CO> pp. 188-195 ²⁸⁾

年代	作品名	日付	単行本タイトル 略号文字
82	「プロメテ」(PROMETHEE)		<VS> pp. 22-24
83	「北部鉄道紛争から得られる教訓についての覚書」 (Remarques sur les enseignements à tirer des conflits au nord)		<CO> pp. 197-205
84	「企業における新しい内部体制のための計画の諸原則」 (Principes d'un projet pour un régime intérieur nouveau dans les entreprises industrielles)		<CO> pp. 207-213
85	「ある屍に関する省察」(Méditations sur un cadavre)		<EHP> pp. 324-327 ²⁹⁾
86	「進歩と生産(断片)」 (Progrès et production (fragment))		<EHP> pp. 398-399
87	「経済学に関する若干の省察」 (Quelques méditations concernant l'économique)		<EHP> pp. 319-323 ³⁰⁾
88	1938 「祖国のこの塵撃する手足」 (Ces membres palpitants de la Patrie)	3月10日	<EHP> pp. 344-350
89	「海」(La mer)	4月	<VS> pp. 31-32
90	「星たちに」(Aux Astres)	4月	<VS> p. 34
91	「扉」(La Porte)	4月	<VS> pp. 35-36
92	「チェコスロヴァキアのためにヨーロッパは戦うべきか」 (L'Europe en guerre pour la Tchécoslovaquie?)	5月25日	<EHP> pp. 273-278
93	「ジョルジュ・ベルナノスへの手紙」 (Lettre à Georges BERNANOS)	5月	<EHP> pp. 220-224
94	「フランス帝国の植民地問題の新たな諸与件」 (Les nouvelles données du problème colonial dans l'Empire français)	12月	<EHP> pp. 351-356 ³¹⁾
95	「断片」(Fragments)		<EHP> pp. 357-360
96	「G. ベルジュリへの手紙」(Lettre à G. BERGERY)		<EHP> pp. 283-289
97	「ブウシエの講演についての考察」 (Réflexions sur la conférence de BOUCHÉ)		<EHP> pp. 279-282
98	「反フランス陰謀の罪は誰にあるか」 (Qui est coupable des menées antifrançais?)		<EHP> pp. 339-343
99	「手紙草稿」(Ebauches de lettres) ³²⁾		<EHP> pp. 102-116
100	1939 「ローマとアルバニア」(Rome et l'Albanie)	7月1日	<EHP> pp. 61-62
101	「歴史の小さな点(「ル・タン」紙編集長への手紙)」 (Un petit point d'histoire (Lettre au Temps))	9月後半	<EHP> pp. 381-382

	年代	作 品 名	日 付	単行本タイトル 略号文字
102		「野蕃についての考察」(Réflexions sur la barbarie)		<EHP> pp. 63-65
103		「わたしたちの時代の混乱」(Désarroi de notre temps)		<EHP> pp. 290-291
104		「ある決算のための考察」 (Réflexions en vue d'un bilan)		<EHP> pp. 296-312
105		「断片」(Fragment)		<EHP> pp. 292-295
106		「断片」(Fragment)		<EHP> pp. 313-314
107		「ジャン・ジロドゥーへの手紙」 (Lettre à Jean GIRAUDOUX) ³⁷¹		<EHP> pp. 361-363
108	1940	「ヒットラー主義の起源に関する若干の考察〔I〕 ヒットラーと古代ローマの対外政策」 (Réflexions sur les origines de l'hitlérisme. [I] Hitler et la politique extérieure de la Rome antique)	1月1日	<EHP> pp. 11-60
109		「アンドレ・ヴェーユへの手紙」 (Lettre à André WEIL)	1月 ³⁴⁰	<SS> pp. 211-257
110		「断片」(Fragment)	6月	<EHP> p. 315
111		「救われたヴェネチア」(Venise sauvée)	9月	<VS> pp. 41-134
112		「プラトンにおける神」(Dieu dans PLATON) ³⁵¹	10月	<SG> pp. 77-136
113		「イーリアスあるいは力の詩」 (L'Iliade ou le poème de la force)	12月	<SG> pp. 11-42
114		プラトン研究 「テアイテトスについて」(Sur le THEETETE) 「バイドロスについて」(Sur le PHEDRE) 「バイドロスと饗宴について」(Sur le PHEDRE et le Banquet) 「バイドロス抄」(Extraits du PHEDRE) 「国家について」(Sur la République) ³⁶¹		<SG> pp. 137-148
115	1941	「デオダ・ロッシュへの手紙」 (Lettre à Déodat ROCHE)	1月23日	<PSO> pp. 63-68
116		「奴隷的でない労働の第一条件」 (Condition première d'un travail non servile) ³⁷¹		<CO> pp. 261-273
117		「稲妻」(Eclair)		<VS> p. 21
118		「必然」(Nécessité) ³⁸¹		<VS> p. 33
119		「〈主の祈り〉について」(A propos du <Pater>) ³⁹¹		<AD> pp. 214-228
120		「神の降臨」(Descente de Dieu) ⁴⁰¹		<IP> pp. 9-171

	年代	作 品 名	日 付	単行本タイトル 略号文字
121		「ギリシア科学史素描」 (Esquisse d'une histoire de la science grecque) ⁴¹		< I P > pp. 173-180
122		「ヘラクレスにおける神」(Dieu dans HERACLITE)		< S G > pp. 149-160 ⁴²
123		「ノート」(Cahiers)		< C I > < C II > ⁴³
124		「波動力学について」 (A propos de la mécanique ondulatoire)		< S S > pp. 269-270
125		「断片」(Fragment)		< S S > pp. 271-273
126		「新科学の基礎について」 (Du Fondement d'une science nouvelle)		< S S > pp. 275-284
127		「メレアグロスの《春》の翻訳」 (Traduction du «Printemps» de Méléagre) ⁴⁴		< S G > pp. 73-74
128	1942	「ペラン神父への手紙」(Lettre à Père PERRIN) [I]	1月19日	< A D > pp. 13-22
129		「ペラン神父への手紙」(Lettre à Père PERRIN) [II]	1月末	< A D > pp. 23-29
130		「ゼウスとプロメテウス」(ZEUS et PROMETHEE)	春	< S G > pp. 43-46
131		「キリスト教と農耕生活」 (Le christianisme et la vie des champs)	春	< P S O > pp. 21-33
132		「神の愛についての考察」 (Réflexions sans ordre sur l' amour de Dieu)	春	< P S O > pp. 35-45
133		「イスラエルと異教徒」(Israël et les gentils)	春	< P S O > pp. 47-62
134		「科学の未来」(L'Avenir de la science)	春	< S S > pp. 177-185
135		「神への愛のために学校の勉強を活用することについての考察」 (Réflexions sur le bon usage des études scolaires en vue de l'Amour de Dieu)	春	< A D > pp. 85-97
136		「神の愛と不幸」(L'Amour de Dieu et le malheur)	春	< P S O > pp. 85-105 pp. 107-131 ⁴⁵
137		「はっきり意識しない神への愛の諸形態」 (Formes de l'Amour implicite de Dieu)	春	< A D > pp. 122-214
138		「ノアの三人の息子と地中海文明史」 (Les trois fils de Noé et l'histoire de la civilisation méditerranéenne)	春	< A D > pp. 228-246
139		「プロローグ」(Prologue)	春 ⁴⁶	< C S > pp. 9-10
140		「質問書」(Questionnaire)	4月初 ⁴⁷	< P S O > pp. 69-72

	年代	作 品 名	日 付	単行本タイトル 略号文字
141		「ベラン神父への手紙」(Lettre à Père PERRIN) [Ⅲ]	4月16日	<AD> pp. 30-33
142		「ジョー・ブスケへの手紙」 (Lettre à Joe BOUSQUET)	5月12日	<PSO> pp. 73-84
143		「ベラン神父への手紙」(Lettre à Père PERRIN) [Ⅳ]	5月15日	<AD> pp. 35-62
144		「ベラン神父への手紙」(Lettre à Père PERRIN) [Ⅴ]	5月16日	<AD> pp. 63-67
145		「ベラン神父への手紙」(Lettre à Père PERRIN) [Ⅵ]	5月26日	<AD> pp. 68-84
146		「アメリカ・ノート」(Cahiers d'Amérique)	5月 ⁴⁸⁾	<CS> pp. 11-302
147		「工場生活に関する考察」 (Réflexions sur la vie d'usine)	7月	<CO> pp. 241-259
148		「モーリス・シューマンへの手紙」 (Lettre à Maurice SCHUMANN)	7月	<EL> pp. 185-215
149		「オク語文明の靈感は何にあるか」 (En quoi consiste l'inspiration occitanienne)	10月	<EHP> pp. 75-84
150		「ある叙事詩をとおしてみた—文明の苦悩」 (L'agonie d'une civilisation vue à travers un poème épique)	10月	<EHP> pp. 66-74
151		「ある修道者への手紙」(Lettre à un religieux)	11月10日	<LR> pp. 7-92
152		「断片」(Fragment)	11月以降	<EL> pp. 151-182
153		「ロンドンで書かれた覚書」(Notes écrites à Londres)	11月末以降	<CS> pp. 303-338
154		「両親への手紙」(Lettre à ses parents)	12月16日	<EL> pp. 218-257
155		「根をもつこと」(L'enracinement)	12月	<E> pp. 9-256
156		「量子論についての考察」 (Réflexions à propos de la théorie des Quanta)	12月	<SS> pp. 187-209
157		「クレアンテス、ペレキュデス、アナクシマンドロスお よびピロラオスについての覚書」 (Notes sur CLEANTHE, PHERECYDE, ANAXI- MANDRE, et PHILOLAOS)	12月	<SG> pp. 161-172
158		「科学とわたしたち」(La science et nous)		<SS> pp. 121-176 pp. 261-268 ⁴⁹⁾
159		「エレクトラの嘆きとオレステスの感謝」 (Plaintes d'Electre et reconnaissance d'Oreste)		<SG> pp. 47-55
160		「神への愛雑感」 (Pensées sans ordre concernant l'amour de Dieu)		<PSO> pp. 13-20

	年代	作品名	日付	単行本タイトル 略号文字
161		「ノート」(Cahiers)		<C II> <C III> ⁵⁰⁾
162	1943	「マルクス主義の矛盾について」 (Sur les contradictions du marxisme)	4月以前	 pp. 194-204
163		「マルクス主義学説は存在するか」 (Y a-t-il une doctrine marxiste?)	4月以前	 pp. 221-254
164		「人格と聖なるもの」(La personne et le sacré)	4月以前	<EL> pp. 11-44
165		「わたしたちは正義のために戦うのか」 (Luttons-nous pour la Justice?)	4月以前	<EL> pp. 45-57
166		「臨時政府の正統性」 (Légitimité du gouvernement provisoire)	4月以前	<EL> pp. 58-73
167		「人間の義務に関する宣言のための習作」 (Etude pour une déclaration des obligations envers l'être humain)	4月以前	<EL> pp. 74-84
168		「新しい憲法草案についての考え」 (Remarques sur le nouveau projet de Constitution)	4月以前	<EL> pp. 85-92
169		「新憲法のための根本的理念」 (Idées essentielles pour une nouvelle Constitution)	4月以前	<EL> pp. 93-97
170		「この戦争は宗教戦争である」 (Cette guerre est une guerre de religions)	4月以前	<EL> pp. 98-108
171		「反抗についての考察」(Réflexions sur la révolte)	4月以前	<EL> pp. 109-125
172		「政党の全面的解消についての覚書」 (Note sur la suppression générale des partis politiques)	4月以前	<EL> pp. 126-148
173		「フランス国民の運命との関連における植民地問題に ついて」(A propos de la question coloniale, dans ses rapports avec le destin du peuple français)	4月以前	<EHP> pp. 364-378
174		「秘蹟の理論」(Théorie des sacrements)	4月以前	<PSO> pp. 133-145
175		「最後のテキスト」(Dernier Texte)	4月以前 ⁵¹⁾	<PSO> pp. 149-153
176	「断片」(Fragment)	4月以前	 pp. 205-220	
177	「アンドレ・ヴェーユへの手紙」(Lettre à son frère)	4月17日	<EL> pp. 216-217	

上記の図表のうち、「単行本タイトル略号文字」という欄の略号は、以下のタイトルに従った省略記号である（掲載はアルファベット順。邦訳名のあとは、出版社、その刊行年号）。

- <A D> Attente de Dieu (「神を待ち望む」)
La Colombe, 1950
- <C I> Cahiers I (「ノート」I) plon, 1951
- <C II> Cahiers II (「ノート」II) plon, 1953
- <C III> Cahiers III (「ノート」III) plon, 1956
- <C O> La condition ouvrière (「労働の条件」)
Gallimard, 1951
- <C S> La connaissance surnaturelle
(「超自然的認識」) Gallimard, 1950
- <E> L'enracinement (「根をもつこと」)
Gallimard, 1949
- <E H P> Ecrits historiques et politiques
(「歴史政治論集」) Gallimard, 1960
- <E L> Ecrits de Londres et dernières lettres
(「ロンドン雑記と最後の手紙」)
Gallimard, 1957
- <I P> Intuitions préchrétiennes
(「前キリスト教的直観」) La Colombe, 1951
- <L P> Leçons de philosophie
(「哲学講義」) plon, 1959
- <L R> Lettre à un religieux
(「ある修道者への手紙」) Gallimard, 1951
- <O L> Oppression et liberté (「抑圧と自由」)
Gallimard, 1955
- <P S O> Pensée sans ordre concernant l'amour
de Dieu (「神への愛雑感」) Gallimard, 1962

- <S G> La source grecque (「ギリシアの泉」)
Gallimard, 1953
- <S S> Sur la science (「科学について」)
Gallimard, 1966
- <V S> Venise Sauvée (「救われたヴェネチア」)
Gallimard, 1955

また、日付け空欄は日付け不詳を意味する。

さて、私はこの〔A〕表をもとに、早速、先に上げておいたいくつかの単語の頻度を示す図表〔B〕の作成に取りかからなければならないのである。その際、諸作品に付け加えられている番号(1. 2. 3...177)は〔A〕表通りになることは当然であるし、さらに、その作品に出てくる何らかの単語は記号化してあらわすことにする(これは、何らかの単語が用いられる作品の頁数を註に書き込むうえでの簡略にすぎない。またこの註において、頁数に続く括弧内の数字は、その頁に出る単語の頻度になっている。註52を参照)。すなわち、「抑圧」(Oppression), 「革命」(Révolution), 「神」(Dieu), 「不幸」(Malheur), 「感情」(Sentiment), 「感受性」(Sensibilité), 「労働」(Travail), 「疲労」(Fatigue)は、順次, ㉑, ㉒, ㉓, ㉔, ㉕, ㉖, ㉗, ㉘にしておくということである。ただし、図表内に記された数字はシモーヌ・ヴェーユの作品における、何らか(㉑から㉘)の単語の全体の数字である(空欄の場合は、それらの単語が見当たらない)ということ、それらの単語は、すでに述べているように、名詞に限定した、したがって代名詞(主語, 目的語, その他)を付加させると、〔B〕表上の数より多くなるということに注意して、以下をみる必要がある。なお、〔B〕表はすべて註52に該当する。

[B]

	単語 作品名	抑圧 ㊤ oppression	革命 ㊦ révolution	神 ㊧ Dieu	不幸 ㊨ malheur	感情 ㊩ sentiment	感受性 ㊪ sensibilité	労働 ㊫ travail	疲労 ㊬ fatigue
1	「火の妖精たち」 (Conte des lutins du feu)								
2	「シャルルマーニュ祭りの会食時に読まれた詩」(Vers lus au goûter de la Saint-CHARLEMAGNE)			2					
3	「金持ちの若い娘に」 (A une jeune fille riche)			1	1				
4	「ある一日に」(A un jour)							1	
5	「デカルトにおける科学と知覚」 (Science et perception dans Descartes)		6	29		21	5	31	2
6	「ある同志への手紙」 (Lettre à un camarade)								
7	「ドイツ革命の条件。レオ・トロツキー著『そして今は』」 (Conditions d'une révolution allemande. «Et maintenant?», par Léon TROTSKY)		14						
8	「ドイツの第一印象」(Premières impressions d'Allemagne)		1						
9	「待機するドイツ(8月9月の印象)」 (L'Allemagne en attente (Impressions d'août et septembre))								
10	「待機するドイツ(8月9月の印象)〔続〕」(L'Allemagne en attente (Impressions d'août et septembre) [suite])		11			9		1	

	作品名	単語 抑圧 ㉑ oppression	革命 ㉒ révolution	神 ㉓ Dieu	不幸 ㉔ malheur	感情 ㉕ sentiment	感受性 ㉖ sensibilité	労働 ㉗ travail	疲労 ㉘ fatigue
11	「ベルリン交通ストライキの教訓」 (Les enseignements de la grève des transports à Berlin)							2	
12	「ドイツの選挙」 (Les élections allemandes)								
13	「ドイツにおける状況〔I〕」 La situation en Allemagne〔I〕)		1			1		2	
14	「ドイツにおける状況。ヒットラーの運動〔II〕」 (La situation en Allemagne. Le mouvement hitlérien〔II〕)	2	2			7			
15	「数学教育」 (L'enseignement des mathématiques)							6	
16	「ドイツにおける状況。ドイツ改良主義〔III〕」 (La situation en Allemagne. Le réformisme allemand〔III〕)		1					7	
17	「ドイツにおける状況。ドイツ改良主義(続)〔IV〕」 (La situation en Allemagne. Le réformisme allemand (suite)〔IV〕)		2					3	
18	「ドイツにおける状況。共産主義運動〔V〕」 (La situation en Allemagne. Le mouvement communiste〔V〕)							1	
19	「ドイツにおける状況。共産主義運動(続)〔VI〕」 (La situation en Allemagne. Le mouvement communiste (suite)〔VI〕)		5			2			
20	「ドイツにおける状況。ドイツの共産主義運動〔VII〕」 (La situation en Allemagne. Le mouvement communiste allemand〔VII〕)							2	
21	「ドイツにおける状況。ドイツの共産主義運動(続)〔VIII〕」 (La situation en Allemagne. Le mouvement communiste allemand (suite)〔VIII〕)		2					1	

	単語 作品名	抑圧 ㉑ oppression	革命 ㉒ révolution	神 ㉓ Dieu	不幸 ㉔ malheur	感情 ㉕ sentiment	感受性 ㉖ sensibilité	労働 ㉗ travail	疲労 ㉘ fatigue
22	「ドイツにおける状況」 (La situation en Allemagne)								
23	「ドイツにおける状況。ドイツ共産主義(続) [X]」 (La situation en Allemagne. Le communisme allemand (suite) [X])		3			3			
24	「ドイツにおける状況。ドイツ共産党(完) [X]」 (La situation en Allemagne. Le parti communiste allemand (fin) [X])	1	4						
25	「テクノクラシー、ナチ主義、ソヴェト連邦、その他についての考察」 (Réflexions concernant la technocratie, le national-socialisme, et quelques autres points)							1	
26	「ドイツにおける状況について」 (Sur la situation en Allemagne)								
27	「ドイツにおける状況について。M. O. R への回答についての覚書」 (Sur la situation en Allemagne. Quelques remarques sur la réponse de la M. O. R)		1						
28	「世界政治のなかのソヴェト連邦の役割」 (Le rôle de l' U. R. S. S dans la politique mondiale)		2			1			
29	「展望、わたしたちはプロレタリア革命に向っているか」 (Perspectives, Allons-nous vers la révolution prolétarienne)	19	7		1	1		48	
30	「哲学講義」 (Leçons de philosophie)	30	1	66	3	83	7	62	2
31	「戦争についての考察」 (Réflexions sur la guerre)	4	16			1		2	
32	「レーニン著『唯物論と経験批判論』」	3	5			1		7	

	単語 作品名	抑圧 ㉔ oppression	革命 ㉕ révolution	神 ㉖ Dieu	不幸 ㉗ malheur	感情 ㉘ sentiment	感受性 ㉙ sensibilité	労働 ㉚ travail	疲労 ㉛ fatigue
	「について」(Sur le livre de LENINE 《Matérialisme et Empiriocriticisme》)								
33	「革命戦争についての断片」 (Fragment sur la guerre révolution- naire)		6						
34	「ボイコットについてさらに一言(断 片)」(Encore quelques mots sur le boycottage (fragments))					2			
35	「断片」(Fragments)	1	1	2		1		1	
36	「十四世紀フィレンツェにおけるプロ レタリアの蜂起」(Un soulèvement prolétarien à Florence au XIV ^e siècle)			1		1		7	
37	「X氏宛の手紙の断片」 (Fragment de lettre à X)								
38	「自由と社会的抑圧との諸原因につ いての考察」 (Réflexions sur les causes de la liberté et de l'oppression sociale)	56	21		4	12		136	6
39	「服従と自由についての省察」 (Méditation sur l'obéissance et la liberté)		1	1		7		1	
40	「革命と進歩との観念の批判的検討」 (Examen critique des idées de ré- volution et de progrès)	2	18		1	1		2	
41	「一女生徒への手紙」 (Lettre à une élève)					1		7	2
42	「工場日記」(Journal d'Usine)	1			2	24		74	24
43	「テヴノン夫人宛の3通の手紙」 (Trois lettres à Albertine THE- VENON)					7		20	1

	作品名	単語	抑圧 ㉑ oppression	革命 ㉒ révolution	神 ㉓ Dieu	不幸 ㉔ malheur	感情 ㉕ sentiment	感受性 ㉖ sensibilité	労働 ㉗ travail	疲労 ㉘ fatigue
44	「ボリス・スヴァリーヌへの手紙」 (Lettre à Boris SOUVARINE)						2			
45	「アランの手紙への回答」 (Réponse à une lettre d'ALAIN)		1						10	
46	「断片」(Fragments)						4		33	
47	M. ベルナルへの手紙または、ある 技師長への手紙 [I] (Lettre à M. BERNARD, ou Lettre à un ingé- nieur directeur d'Usine [I])						5		10	
48	「M. ベルナルへの手紙 [II]」 (Lettre à M. BERNARD [II])						3		1	
49	「M. ベルナルへの手紙 [III]」 (Lettre à M. BERNARD [III])					1	4		3	
50	「M. ベルナルへの手紙 [IV]」 (Lettre à M. BERNARD [IV])		2				8	1	2	
51	「M. ベルナルへの手紙 [V]」 (Lettre à M. BERNARD [V])		2	3	1	1	1		2	
52	「M. ベルナルへの手紙 [VI]」 (Lettre à M. BERNARD [VI])									
53	「M. ベルナルへの手紙 [VII]」 (Lettre à M. BERNARD [VII])						2		1	
54	「M. ベルナルへの手紙 [VIII]」 (Lettre à M. BERNARD [VIII])								1	
55	「M. ベルナルへの手紙 (断片) [IX]」(Lettre à M. BERNARD (fragment) [IX])									
56	「アンティゴネー」(ANTIGONE)				3	5				
57	「アランの問いに答える」 (Réponse à une question d'ALAIN)		2							

	作品名 単語	抑圧 ㊸ oppression	革命 ㊹ révolution	神 ㊺ Dieu	不幸 ㊻ malheur	感情 ㊼ sentiment	感受性 ㊽ sensibilité	労働 ㊾ travail	疲労 ㊿ fatigue
58	「名誉と国家の威信に関する諸考察」 (Quelques réflexions concernant l'honneur et la dignité nationale)					2			
59	「エレクトル」(ELECTRE)	2		4	3	1			
60	M. ベルナルへの手紙 [X] (Lettre à M. BERNARD [X])								
61	「一組合員への公開状」 (Lettre ouverte à un Syndiqué)							2	
62	「M. ベルナルへの手紙 [XI]」 (Lettre à M. BERNARD [XI])					1			
63	「女子精錬工の生活とストライキ」 (La vie et la grève des ouvrières métallos)	1			1	6		11	8
64	「M. ベルナルへの手紙 [XII]」 (Lettre à M. BERNARD [XII])					1		1	
65	「スペイン日記」 (Journal d'Espagne)		1			1		3	1
66	「軍靴を磨いておくべきか」 (Faut-il graisser les godillots?)		1		1				
67	「中立政策と相互援助」 (La politique de neutralité et l'as- sistance mutuelle)		2						
68	「一般化された不介入政策」 (Non-intervention généralisée)	1				4			
69	「嫌われるための考察」 (Réflexions pour déplaire)							2	
70	「断片」(Fragment)		4						
71	「オーギュスト・ドトッフへの手紙」 (Lettre à Auguste DETCEUF)					6		9	2

	単語 作品名	抑圧 ㉑ oppression	革命 ㉒ révolution	神 ㉓ Dieu	不幸 ㉔ malheur	感情 ㉕ sentiment	感受性 ㉖ sensibilité	労働 ㉗ travail	疲労 ㉘ fatigue
72	「オーギュスト・ドトッフへの手紙」 (Lettre à Auguste DETŒUF)							3	
73	「モロッコ、あるいは飛行制限に関する命令」 (Le Maroc ou la prescription en matière de vol)								
74	〈講演〉演題「合理化」 (La rationalisation)	1	2			1		89	2
75	「チュニアの流血」 (Le sang coule en Tunisie)	1			1		1		
76	「トロイア戦争を繰り返さずまい」 (Ne recommençons pas la guerre de Troie)								
77	「トロイア戦争を繰り返さずまい〔続〕」 (Ne recommençons pas la guerre de Troie [suite])	1	2			2		5	
78	「一男生徒への手紙の断片」 (Fragment d'une lettre à un étudiant)								
79	「ポール・ヴァレリーへの手紙」 (Lettre à Paul VALÉRY)								
80	「労働の条件」(La condition ouvrière)	1	2					8	
81	「オーギュスト・ドトッフへの手紙」 (Lettre à Auguste DETŒUF)							1	
82	「プロメテ」(PROMETHEE)				1				
83	「北部鉄道紛争から得られる教訓についての覚書」 (Remarques sur les enseignements à tirer des conflits au nord)	1				3		21	
84	「企業における新しい内部体制のための計画の諸原則」 (principes d'un projet pour un régime intérieur nouveau dans les entreprises industrielles)					5		17	

	単語 作品名	抑圧 ㉑ oppression	革命 ㉒ révolution	神 ㉓ Dieu	不幸 ㉔ malheur	感情 ㉕ sentiment	感受性 ㉖ sensibilité	労働 ㉗ travail	疲労 ㉘ fatigue
85	「ある屍に関する省察」 (Méditations sur un cadavre)		1			1	1		
86	「進歩と生産 (断片)」 (Progrès et production (fragment))								
87	「経済学に関する若干の省察」 (Quelques méditations concernant l'économique)		2		1	1			
88	「祖国のこの痙攣する手足」 (Ces membres palpitants de la Patrie)							2	
89	「海」(La mer)								
90	「星たちに」(Aux Astres)								
91	「扉」(La Porte)								
92	「チェコスロヴァキアのためにヨーロッパは戦うべきか」 (L'Europe en guerre pour la Tchécoslovaquie?)		1	1					
93	「ジョルジュ・ベルナノスへの手紙」 (Lettre à Georges BERNANOS)					1			
94	「フランス帝国の植民地問題の新たな諸与件」 (Les nouvelles données du problème colonial dans l'Empire français)	1				3			
95	「断片」(Fragments)								
96	「G. ベルジュリへの手紙」 (Lettre à G. BERGERY)				2	1			
97	「ブウシエの講演についての考察」 (Réflexions sur la conférence de BOUCHÉ)				1				

	単語 作品名	抑圧 ㉑ oppression	革命 ㉒ révolution	神 ㉓ Dieu	不幸 ㉔ malheur	感情 ㉕ sentiment	感受性 ㉖ sensibilité	労働 ㉗ travail	疲労 ㉘ fatigue
98	「反フランス陰謀の罪は誰にあるか」 (Qui est coupable des menées anti-français?)	1				3		3	1
99	「手紙草稿」(Ebauches de lettres)	1			3	2			
100	「ローマとアルバニア」 (Rome et l'Albanie)								
101	「歴史の小さな点(「ル・タン」紙編 集長への手紙)」(Un petit point d'histoire (Lettre au Temps))								
102	「野蛮についての考察」 (Réflexions sur la barbarie)						1		
103	「わたしたちの時代の混乱」 (Désarroi de notre temps)					4			
104	「ある決算のための考察」 (Réflexions en vue d'un bilan)		8		1	7		4	1
105	「断片」(Fragment)								
106	「断片」(Fragment)								
107	「ジャン・ジロドゥーへの手紙」 (Lettre à Jean GIRAUDOUX)								1
108	「ヒットラー主義の起源に関する若干 の考察 [I] ヒットラーと古代ローマ の対外政策」(Réflexions sur les ori- gines de l'hitlérisme. [I] Hitler et la politique extérieure de la Rome antique)	1	4	3	14	11	2	8	
109	「アンドレ・ヴェーユへの手紙」 (Lettre à André WEIL)			11	5	19		9	
110	「断片」(Fragment)								

	単 語 作品名	抑 圧 ㉔ oppression	革 命 ㉕ révolution	神 ㉖ Dieu	不 幸 ㉗ malheur	感 情 ㉘ sentiment	感 受 性 ㉙ sensibilité	勞 働 ㉚ travail	疲 勞 ㉛ fatigue
111	「救われたヴェネチア」 (Venise sauvée)			9	3	10	1		
112	「プラトンにおける神」 (Dieu dans PLATON)		1	103	6	6	1	2	
113	「イーリアスあるいは力の詩」 (L'Iliade ou le poème de la force)			4	15	4		2	
114	プラトン研究 「テアイテトスについて」(Sur le THEETETE) 「バイドロスについて」(Sur le PHEDRE) 「バイドロスと饗宴について」 (Sur le PHEDRE et le Banquet) 「バイドロス抄」(Extraits du PHEDRE) 「国家について」(Sur la République)			20	1	2			
115	「デオダ・ロッシュへの手紙」 (Lettre à Déodat ROCHE)					1			
116	「奴隸的でない労働の第一条件」 (Condition première d'un travail non servile)		5	15	4	2		34	2
117	「稲妻」(Eclair)								
118	「必然」(Nécessité)								
119	「〈主の祈り〉について」 (A propos du «Pater»)			27		2		1	
120	「神の降臨」(Descente de Dieu)		1	308	41	17	5	8	3
121	「ギリシア科学史素描」(Esquisse d' une histoire de la science grecque)			3					
122	「ヘラクレイトスにおける神」 (Dieu dans HERACLITE)		2	6	1		1		
123	「ノート」(Cahiers)	<C I> 7 <C II>	6	81 348	57 95	50 50	7 20	149 56	22 15

	単語 作品名	抑圧 ㉑ oppression	革命 ㉒ révolution	神 ㉓ Dieu	不幸 ㉔ malheur	感情 ㉕ sentiment	感受性 ㉖ sensibilité	労働 ㉗ travail	疲労 ㉘ fatigue
124	「波動力学について」 (A propos de la mécanique ondulatoire)							1	
125	「断片」 (Fragment)							1	
126	「新科学の基礎について」 (Du Fondement d'une science nouvelle)			4				2	1
127	「メレアグロスの《春》の翻訳」 (Traduction du «printemps» de Méleagre)							1	
128	「ベラン神父への手紙」 (Lettre à Père PERRIN) [I]			18		3			
129	「ベラン神父への手紙」 (Lettre à Père PERRIN) [II]					6			
130	「ゼウスとプロメテウス」 (ZEUS et PROMETHEE)				2				
131	「キリスト教と農耕生活」 (Le christianisme et la vie des champs)			12	2	1		20	
132	「神の愛についての考察」 (Réflexions sans ordre sur l'amour de Dieu)			61	2	1			
133	「イスラエルと異教徒」 (Israël et les gentils)			42					
134	「科学の未来」 (L'Avenir de la science)			1				6	
135	「神の愛のために学校の勉強を活用することについての考察」 (Réflexions sur le bon usage des études scolaires en vue de l'Amour de Dieu)			11	1	2		4	7
136	「神の愛と不幸」 (L'Amour de Dieu et le malheur)	1		119	166	7	8	1	2
137	「はっきり意識しない神への愛の諸形」			151	40	13	7	4	3

	作品名	抑圧 ㉓ oppression	革命 ㉔ révoluion	神 ㉕ Dieu	不幸 ㉖ malheur	感情 ㉗ sentiment	感受性 ㉘ sensibilité	労働 ㉙ travail	疲労 ㉚ fatigue
	「態」(Formes de l'Amour implicite de Dieu)								
138	「ノアの三人の息子と地中海文明史」 (Les trois fils de Noé et l'histoire de la civilisation méditerranéenne)			21	1			1	
139	「プロローグ」(Prologue)			(24)					
140	「質問書」(Questionnaire)			3					
141	「ベラン神父への手紙」 (Lettre à Père PERRIN) [III]			1			1		
142	「ジョー・ブスケへの手紙」 (Lettre à Joe BOUSQUET)			6	16	2	1	1	
143	「ベラン神父への手紙」 (Lettre à Père PERRIN) [IV]	1		29	9	6	3	1	1
144	「ベラン神父への手紙」 (Lettre à Père PERRIN) [V]			3				6	
145	「ベラン神父への手紙」 (Lettre à Père PERRIN) [VI]			36	11	1			
146	「アメリカ・ノート」 (Cahiers d'Amérique)			901	79	38	13	30	6
147	「工場生活に関する考察」 (Réflexions sur la vie d'usine)			1	12	17		47	3
148	「モーリス・シューマンへの手紙」 (Lettre à Maurice SCHUMANN)			11	9	7	1	5	3
149	「オク語文明の靈感は何にあるか」 (En quoi consiste l'inspiration occitanienne)		1	11	2	1	1	1	
150	「ある叙事詩をとおしてみた一文明の苦悩」 (L'agonie d'une civilisation vue à travers un poème épique)			2	2	6			

	単語 作品名	抑圧 ㉓ oppression	革命 ㉔ révolution	神 ㉕ Dieu	不幸 ㉖ malheur	感情 ㉗ sentiment	感受性 ㉘ sensibilité	労働 ㉙ travail	疲労 ㉚ fatigue
151	「ある修道者への手紙」 (Lettre à un religieux)	1	1	76	9	1		2	
152	「断片」(Fragment)			14	10	2	4	5	
153	「ロンドンで書かれた覚書」 (Notes écrites à Londres)			85	6	3		6	1
154	「両親への手紙」 (Lettre à ses parents)				1	2	1	18	1
155	「根をもつこと」(L'enracinement)	5	19	125	49	81	6	88	9
156	「量子論についての考察」 (Réflexions à propos de la théorie des Quanta)		2	1	2			17	
157	「クレアンテス、ベレキュデス、アナ クシマンドロスおよびピロラオスにつ いての覚書」(Notes sur CLEAN- THE, PHERECYDE, ANAXIMAN DRE, et PHILOLAOS)			20	1				
158	「科学とわたしたち」 (La science et nous)			11	4	1	1	41	
159	「エレクトラの嘆きとオレステスの感 謝」(Plaintes d'Electre et reconnais- sance d'Oreste)			2	8				
160	「神への愛雑感」(Pensées sans ordre concernant l'amour de Dieu)		1	7	2			7	
161	「ノート」(Cahiers)	<C II> <C III> 3	2 8	271 463	53 23	19 22	5 8	8 26	1 3
162	「マルクス主義の矛盾について」 (Sur les contradictions du marxisme)	9	14			1		11	1
163	「マルクス主義学説は存在するか」 (Y a-t-il une doctrine marxiste?)	3	11	4	2	2		5	

思想の一貫性という立場から、これらの図表を一見すると、シモーヌ・ヴェーユに付け加えられた社会思想家や宗教思想家なる肩書を消し去ることができると思うのである（ただし、前記もしていたように、まず彼女の生涯全体にわたって終始問題にされていたであろう思想（思考）を構成する単語がすべて網羅され、その説明がなされたり、次に、それらの単語のいくつかはおたがい関連しあうということを実証させてみたり、そして、何よりも、作品を書かせる契機としての彼女の現実の行動が明かされたりする段階にまで論証が導かれることによって、はじめて、その思想の一貫性なる立場が確実になるのであり、本来、その検討なしには何も語れなくさせるところであるが、それでも一見による言及がここに許されるとするならば、社会思想家や宗教思想家の肩書は、彼女にあって、不必要なものになっているということである）。

ともかく、こうした肩書をもつと捉えられる場合、これらの図表からは、シモーヌ・ヴェーユが工場体験を終える1935年7月31日を境にして、前後の作品（図表〔A〕〔B〕の番号のおよそ46までの作品がその境界となる）に区分し、そこに出てくる単語の頻度の多さによって、前半のいわゆる社会思想家、後半のいわゆる宗教思想家の肩書の選別が可能になったとみなされ得るはずなのである（しかし、実際のところ、それでは前半と後半とあまりに作品数が違いすぎるから、どちらかの肩書で彼女を呼ぶことも不可能なのである。作品の長短を度外視する単純計算において、前半の作品が46であり、後半のそれが131にも達するので、選別の対象にさえなり得ないのだ）。「抑圧」⑧、「革命」⑨という単語を社会思想家の立場の発言として捉えたと、それらの単語は何も前半だけのものではなく、数は少ないが、後半にも使用される言葉となっている。とくに、「革命」という単語にかぎっていえば、それは、後半に属する1942年の『根をもつこと』〈E〉（N°155）、1943年の『マルクス主義学説は存在するか』〈OL〉（N°163）、『反抗についての考察』〈EL〉（N°171）、『フランス国民の運命との関連における植民地問題について』〈EHP〉（N°173）、『断片』〈OL〉（N°176）に記されてくる。しかし、それらの作品における頻度の大半は、歴史上の革命（フランス革命）について記したものになり、このときまでも、革命が必要なのだと彼女が叫んでいるのでは絶対ないのだが⁵³、それでも社会思想家という肩書は彼女の前半

生にあてはまるといえそうだ。それに、「労働」⑩なる単語も見出されるとすれば、ますます、社会思想家という肩書は肯定してもよいようにみえてこよう（ただ、「労働」は総頻度1325回で、177の作品全体のうち94のそれに出てくる単語になっているが、労働をたんに合理化せよと彼女が主張するだけのそれでは決していない。また、「疲労」⑪という単語は「労働」と関係をもつとしても、労働から疲労をなくせということで、「疲労」の単語が何度となく用いられてくるのではないように思われる。したがって、この「労働」なる単語は、社会思想家という肩書だけに押し込めておいてよいというものではない）。

以上のことは、シモーヌ・ヴェーユが宗教思想家なる肩書をもつとみなされることに対しても、同様にいえるように思うのだ。「神」⑫という単語を宗教思想家の立場の発言として捉えたと、その単語は、前半の1930年の学士論文である『デカルトにおける科学と知覚』〈SS〉（N°5）、1933年の『哲学講義』〈LP〉（N°30）に用いられているにしても、圧倒的に後半の諸作品に多いといえるからである（177の作品数のうち、65の作品にこの単語があり、総頻度は実に3659回に達している）。学士論文と講義ノートに出てくる「神」は、彼女にとって生の切実な問題になる神として取り上げられているのでは決していないのだから、そこに、宗教思想家なる肩書を付加させることはふさわしくないというわけである（ただ、後半において、宗教思想家という立場が堅持されると認められようとも、それは、もはやキリスト教的な宗教思想家であるというようには捉えきれない感じを与えさせるのである。なぜなら、Koan, Satori, Nembutsu, Dharma, Yoga, Karma, Brahman, Ātman, Krishnaなどの単語が使われてくるからである）。

しかしながら、かりに社会思想家・宗教思想家という肩書が私に選択されることになるとしても、シモーヌ・ヴェーユにそうした姿勢をもたせるようになった原因は何かを私に認めさせるのでないかぎり、その選択を受け入れることはできない。もし自分自身を社会思想家や宗教思想家に見立てているのなら、それならばなおのこと、何らかの原因がなくては、社会思想家や宗教思想家としての姿勢、あるいは、それぞれの現実の行動を、彼女も選り取らなかつたはずである。その原因には、シモーヌ・ヴェーユ研究者諸氏の語るような「不幸」⑬ということが該当してくるだろう。そ

して、この不幸は抑圧、革命、神、あるいは、労働、疲労という単語と当然かかわりをもつことにもなる。しかし、図表〔B〕をみてもわかるように、前半（およそN°46の作品）まで「不幸」の頻度は数えるしかないといえるほど少ないのである。とすれば、社会思想家ということにあっては、「不幸」が原因となるとみることができなくなる。それでは、彼女は宗教思想家になってしまうのであろうか。私はまた、そうではないといわなければならない。なぜなら、彼女は思想の一貫性を保っているということを何より前提にしているのだから、前半にその「神」なる単語があまり見出されない以上、宗教思想家と彼女を名付けることは不可能だとみるほかにないからである。そのとき、「不幸」という単語の方は、後半に多く出てくるそれをして神に関係せしめるものになるようにみえるが、決して不幸なる思想が一貫したことを意味させない単語になるのである（いわゆる彼女の語る不幸という単語が出てくる時点からのその一貫性として捉えようとするのであれば、一貫性なる観点が異なってくるのだから、話は別のものになるはずだが、私はそのようにはみないということをここで断っておく。なお、私のみるような思想の一貫性の観点でこれを捉えさせないのはこの宗教思想家にかぎってのことだけではなく、社会思想家を対象にする場合も同様である）。

実は、この思想の一貫性を形成し、「抑圧」「革命」「神」ならびに「労働」「疲労」に関係してくる単語がほかにあると思うから、私は、そのようにいうことができるのである。つまり、私のいう思想の一貫性をかたちづくり、これらの単語にかかわってくる他の単語が、「不幸」というそれ以外に多く見出されるということである。私たちはこの他の単語を絶対見逃してはならない。そして、いうまでもなく、その他の単語が、彼女の行動に駆り立てる原因を構成することになるわけである。そしてまた、この際には、社会思想家や宗教思想家なる肩書はおよそ消し去られてしまう運命にあるということになる。その単語とは、図表〔B〕に載っているところの、およそ100の作品に出てくる「感情」②であるし、その頻度は「感情」や「不幸」（およそ63の作品にみられる）に匹敵すべきもない「感受性」①（およそ30の作品にみられる）なのである（総頻度は感情667回、不幸839回、感受性121回である）。こうしてみると、少なくとも、「感情」は作品数で「不幸」より勝り、総頻度において、「不幸」よ

り劣る（後段の説明から、この感情と感受性を切り離さずにいっしょにして捉えることが可能になる。そうすれば、総頻度において、「不幸」に近くなるはずである）が、しかし、もはや、この「感情」という単語を省いて、思想の一貫性について語ることはできないということになってくるのだ。

ということは、その「感情」なる単語に注目しつつシモーヌ・ヴェーユを捉えてみるのが可能になることを予想させてくる。そして、これは、私の従来からの主張にかなってもくるのである。しかし、そこに、「感受性」はなぜ取り上げられているのか。それは、私の主張のまさに根幹をなすものとしてあるからにはかならない。「感受性」という単語は、すでに記したように、それほど多いというわけではないが、後半に属する1940年の『神の降臨』〈I P〉（N°120）以降、1943年まで、それ以前と比べて意外と多く出てくる。そこに着目し、それが何を意味させるかを考えておかなければならないだろう。しかし、今はそのことを考えるより、「感受性」が私の主張の根幹を形成するものとみるとはいえ、この単語の頻度は、実際、他の「感情」や「不幸」なる単語のそれに比べて少ないとされるかぎり、「感受性」は思想の一貫性の二義的要因にしかなり得ず、「感受性」が根幹をなしているとする私の主張なるものは結局、崩壊するしかないのかどうかを確かめておく方が優先させられるのである。しかし、私の主張は絶対無に帰することはないといえよう。それは何ゆえなのか。

シモーヌ・ヴェーユの諸作品には、この「感受性」に組み込まれる単語がまた多く出てくるといのが、その理由である。つまり、「感受性」と同じように理解されると捉え得る単語が初期の諸作品から多くある。この単語の代表は、辞書の訳語（クラウン辞典参考）を添えておくと、Douleur（肉体的苦痛、あるいは精神的苦しみ）であり、Souffrance（心身の苦痛・苦悩）である。次に、Désir（欲望・願望）、Plaisir（楽しみ・喜び・肉体的快楽）、Joie（喜び・歓喜、複数形で快楽）がくる。そして、Misère（貧困、複数形で悲惨事・苦勞）、Peur（恐怖・心配）、Horreur（恐怖・残酷）、Cruauté（残酷、複数形で残酷な行為）、 Crainte（恐れ・心配）、Terreur（大きな恐怖）、Angoisse（不安・恐怖）、Peine（精神的苦しみ・悲しみ・苦勞）、Chagrin（悲しみ・苦痛）、Tristesse（悲しみ、複数形で悲しい出来事）、Honte（恥・恥辱）、

Humiliation(屈辱・恥辱), Désespoir(絶望・落胆), Haine(憎しみ・嫌悪), Colère(怒り), Torture(責苦・堪え難い苦しみ), Pitié(哀れみ・憐憫)がくる。そしてまた、これらと同じような意味を担わされて理解できるEsclave(奴隷)や Fatigue(疲労)がくる。以上の単語を「感受性」に含ませて捉えなおしてみると、「感情」・「不幸」という単語より、「感受性」に類する頻度の方が当然、圧倒的に多くなるわけである(以上の単語の頻度については、次回にまた図表を用いて実証してみようと思っている)。

しかし、以上の単語がなぜ「感受性」に組み込まれるとみることができるのか。以上の単語の訳語のいくつかにおいて、精神的、あるいは、肉体的と記されているのに注意をしておけば、その理由が明らかにされるのだ。たとえば、Douleur と Souffrance にあって〈精神的苦しみ〉や〈心の苦痛〉は、私たちの「感情」というものから発しているはずである。とすれば、肉体的という訳語も添えられているのだから、それに該当するのは何か、いいかえると、〈肉体的苦痛〉やく身の苦痛は何に発するとみるべきか、問う必要がある。それはひとまず、精神的能力であるとみてよい。「感情」ではあり得ないということができるだろう(ひとまずといったのは、たんなる、ないしは、ふつうの感情がそれ自体の強さや激しさによって、情動 Émotion, あるいは、情念 Passion にもなり得るからである。そして、ひとたび、情動や情念になると、それらは、以下の説明でもわかるように、身体とかかわらざるを得なくさせるのである。しかし、このかわりには、魂から身体への関係なのだ)。それゆえ、この〈肉体的苦痛〉や〈身の苦痛〉をもたらずのは「感受性」しかないということになるのである(そしてこれこそ、身体の魂への関係をかたちづくるものとしてあることになる)。Douleur や Souffrance を肉体的苦痛やく身の苦痛と捉えるとき、私は次回にも、「感受性」という単語が使用されている重要な個所の訳出を試みることによって、Douleur や Souffrance 対「感受性」の関係の明らかにしておかなければならぬだろうが、「感受性」もまずは、デカルトの証明した情念に関係する能力であるということだけは可能になる。なぜなら以上の単語が情念に類似してくるからである。「情念論」において、デカルトは基本的な情念を、「驚き」「愛」「憎しみ」「欲望」「喜び」「悲しみ」においたといわれている⁵⁴。註54をも参照する

と、以上の単語はすべて、この情念のなかに含まれてくる。そして、その情念が身体に関係するのかどうかは、とりわけ「愛」「憎しみ」「欲望」「喜び」「悲しみ」という「情念はすべて身体に関係しており、身体に合一しているかぎりでの精神に対してのみ与えられている」⁵⁵ ということによって理解される。それゆえ、以上の単語は、デカルトの真意は別にして、「感情」または魂から生み出されるだけではなく、「感受性」または身体から作り出されるもするといいたい(次回に検討)。

ところで、シモーヌ・ヴェーユは自らの語彙として精神(Esprit)ではなく、魂(Âme)という単語を非常に多く用いているし、同時に身体は Chair ではなく、Corps を多く使用している。そして、これらの単語を対に並べるときにあっても(たとえば、『根をもつこと』〈E〉(N°155)のp.236など)、たえずそうなのである(これらの頻度も次回に記す予定である)。ここには、どんなことが考えられるだろうか。それは彼女がデカルトのような物心二元論的な立場を取らないことを示唆させているように思われる。仏教や禅などの単語を記すところからも知ることができるように、彼女は心身一如的な立場を選択しているのである。そのように取らないと、なぜ彼女が仏教や禅などに言及するのかわからない。おそらく、これは魂と身体を結びつけさせる「感情」あるいは「感受性」を強調させるためであり、そのためにも Âme を使用する必要があったのだろう。少なくとも、デカルトのいう精神では、身体と関係することは絶対ないのだから。

以上のように一見することができても、Douleur 以下の単語は Désir, Plaisir, Joie, Amour を除き、「不幸」をあらわすものでないかとの反論を受ける単語に相当してこよう。確かに、以上の単語は不幸を形成する要因になるといえよう。しかし、それ以前に、私の主張である心身論的な立場からも、「不幸」を理解することにおいて、「不幸」の何たるかを明らかにさせることが可能にならないかということを見る必要がある。いいかえると、この立場の究明によって、「不幸」の新しい局面が見出され、「不幸」という問題に真に到達させる際の中心を射抜くような展開を可能にさせるのではないかということなのである。そのための手がかりは、まず、「感受性」のある文章に身体との関係を見出せるか、次に、以上の単語が身体からのものか、そして、その情念はデカルトの「情念」と同じかの実証にある。それが回次の緊急課題となるだろう。

註

- 1) Jacques Cabaud: 「L'expérience vécue de Simone Weil」 p.9. plon. なお、この引用文は新潟大学教養部研究紀要、第16集に掲載したものである。
- 2) 同第16集 (pp. 19-20) に、次のように記してもあるから参照のこと、すなわち、「…「抑圧」なる言葉の意味が豊富で、そのひとつの意味が「神」を暗示するような内容をもつとみることができるなら、活動家と宗教者の肩書に何らかの関係が存在するという点で、事情は異なってくるだろう。しかし、「抑圧」「革命」と「神」とのあいだには、いかなる関連性もない、ということなのだ。…活動家としての、生涯の前半の時期(およそ1935年7月末日の工場体験を終えるまで)によくでてきた「抑圧」や「革命」と、宗教者の立場を保持した、後半の時代に頻繁に使用された「神」の単語では、一貫して発展する思想の接点が見出されない」ということである。
- 3) 拙論「感受性試論〔I〕」(新潟大学教養部研究紀要、第17集、1986年)と「シモーヌ・ヴェーユの三作品における精神的能力と感受性」(同第18集、1987年)を参照のこと。また、今回は、彼女に付け加えられた社会思想家・宗教思想家なる肩書についての問題と、私が継続させている問題に関する拙論であるが、とりわけ、後者の問題を発展させていこうとするものである。その点で、この論考は「感受性試論」〔III〕にもなり得るのである。
- 4) この点に関しての本格的な言及は、次回にまわすことにする。ただ、その主張のねらいは、本文の最後のところに、わずかではあるが、打ち出している。
- 5) 無冠詞の場合の Dieu だけを取り上げるようにした。したがって、le Dieu, un Dieu, Dieux (<<C III>> p. 55, 245), 形容詞のついたもの、Dieu incarné (<<C III>> p. 275), あるいは、dieu, dieux は省略することになる。ただし、《Mon Dieu, pourquoi m'as-tu abandonné?》における Dieu は数えてある(マタイによる福音書 27:46 (p. 48), ならびに、マルコによる福音書 15:34 (p. 80) 日本聖書協会、1955年改訳版参照)。シモーヌ・ヴェーユの諸作品(たとえば、<<C S>> p. 109, 308, <<C II>> p. 251 など)に出てくるこの言葉は、キリストの叫びである。それはキリスト教的な神(Dieu)と捉えてよいのである。また、以上のように、Dieu にかぎらず、引用文中にある単語も加えることにした。また、<<C III>> <<C S>> <<C II>> の記号は本文図表〔A〕、あるいは、それに続く説明を参照のこと。
- 6) 熟語は省略する。とりわけ par malheur は頻度が多いにもかかわらず、省かざるを得ないものとしてある。
- 7) 「感情」という訳語では、ほかに affection という単語もある。頻度はさほどでないから、その都度、註として取り扱うつもりである。
- 8) 「労働」あるいは「仕事」という訳語には、ほかに、métier, tâche という単語もあり、シモーヌ・ヴェーユもそれらの単語を使用している。ここで、travail のみを選択したのは、「肉体的な労働」と関係があるためなのである。
- 9) 1927年ともいわれている。
- 10) 1932年ともいわれている。
- 11) これには <variante> がある。<<EHP>> pp. 383-384。ここの語彙は省略する。
- 12) これには <variante> がある。<<EHP>> pp. 384-385。ここの語彙は省略する。
- 13) これには <variante> がある。<<EHP>> pp. 390-391。ここの語彙は省略する。
- 14) これには <ébauche> がある。<> pp. 257-263。ここの語彙は省略する。
- 15) 1933年10月から1934年6月までロアンヌ女子高等中学の哲学教師であったシモーヌ・ヴェーユの講義録。生徒だったアンヌ・レーノー (Anne REYNAUD) がまとめて刊行す。
- 16) これには <ébauche> がある。<> p. 264。ここの語彙は省略する。
- 17) これは1933年12月から1934年のはじめの期間にかけての執筆であるといわれている。
- 18) これは1933年から1938年の期間にかけての執筆であるといわれているが、Fragment III の <appendice> が <> pp. 272-273にある。ここの語彙は省略する。
- 19) これには <ébauche> がある。<> pp. 265-271。ここの語彙は省略する。また、「シモーヌ・

- ヴェーユの宗教形而上学」では1933年の執筆とされている (p. 151)。
- 20) 1934年12月4日から1935年7月31日まで (パリのアルストン電機会社 (1934年12月4日—1935年4月5日), パリ近郊のカルノー製鉄所 (1935年4月11日—5月7日), パリ近郊のルノー自動車工場 (6月5日—7月31日)), 女工として働いていた期間にかけての日記である。
- 21) これは1935年から1936年にかけての執筆であるといわれている。
- 22) これは1936年4月末から5月はじめにかけて執筆されたものであるといわれている。
- 23) これには〈variante〉がある。〈EHP〉pp. 396-397。この異稿のタイトルは、「アランの質問事項に答える」(Réponse au questionnaire d'Alain) である。しかし、この語彙は省略する。
- 24) これは1936年5月末から6月はじめにかけて執筆されたものであるといわれている。
- 25) これには〈variante〉がある。〈EHP〉pp. 392-393。この語彙は省略する。
- 26) 本文の表の番号71と72は、ともに、1936年後半から1937年にかけて執筆されたものであるといわれている。
- 27) これは単行本に組み入れられていない書簡であるが、あえてここに取り上げるのは新潟大学教養部研究紀要第16集 (p. 26) の同項目の記載が誤りであり、そのことを訂正する必要があったからである。「シモーヌ・ヴェーユの宗教形而上学」(p. 161)によると、それは1938年になっている。このことは少なくとも、第16集への記載に当たって参考にしたジャック・カポー (Jacques Cabaud) の「L'Expérience vécue de Simone Weil」の邦訳「シモーヌ・ヴェーユ伝」の書誌を掲載したなかの補遺 (p. xxi) の同項目よりも、正確とはいえないが、それでもそれに近いように思う。というのは、何よりもまず、1937年9月20日付けのポール・ヴァレリーの返信 (〈VS〉 pp. 9-10) を前提にして語らなければならないからである。それに、この返信には、本文の表に載せてある、1937年日付不詳の「プロメテ (PROMETHEE)」に関して、ヴァレリーが言及している。シモーヌがこの詩を彼に送っての返信であろうから、シモーヌの手紙はおそらく、9月中に出されたものと推測できるように思われる。
- 28) このページ数 (pp. 188-195) のうち、pp. 191-195は「オーギュスト・ドトッフの返事」(Réponse de A. DETCEUF) になっている。したがって、この部分の語彙は省略する。
- 29) これには〈variante〉がある。〈EHP〉pp. 403-407。この語彙は省略する。
- 30) これには「破産擁護の草案」(Esquisse d'une apologie de la banqueroute) と題された〈variante〉がある。〈EHP〉pp. 400-402。しかし、この語彙は省略する。
- 31) これには〈variante〉がある。〈EHP〉pp. 408-409。この語彙は省略する。
- 32) これは1938年か1939年に執筆されたものであるといわれている。
- 33) これは1939年末か1940年に執筆されたものであるといわれている。
- 34) これは1940年1月から4月にかけて出された書簡である。また、ここにはさらに、1941年から1942年までのそれを含ませることにする。
- 35) 「シモーヌ・ヴェーユの宗教形而上学」(p. 152)によると、これは1940年10月から1942年11月までの期間にかけて執筆されたものであるといわれている。
- 36) これらは1940年末から1942年11月にかけて執筆されたものであるといわれている。
- 37) 「シモーヌ・ヴェーユの宗教形而上学」(p. 152)によると、これは1941年の春か夏に執筆されたものであるといわれている。
- 38) 「稲妻」と「必然」はともに1941年の前半に執筆されたものであるといわれている。ただし、前者は1932年に書かれたとされ、この年、訂正を加えたものになっている。
- 39) これは1941年秋に執筆されたものであるといわれている。
- 40) 「シモーヌ・ヴェーユの宗教形而上学」(p. 152)によると、これは1941年11月から1942年5月26日にかけて執筆されていたものであるといわれている。
- 41) これは1941年11月から1942年5月にかけて執筆されていたものといわれている。
- 42) ここに「ヘラクレスの断片の翻訳」(Traduction des fragments d'HERACLITE) も含

- ませておくことにする。
- 43) ここには、〈C I〉(pp. 9-295) のすべてと、〈C II〉(pp. 11-339) のうちの p. 195までが含まれる。いいかえると、〈C I〉の cahier I からⅣまでの全部と、〈C II〉の cahier V からⅧまでのうちの V とⅦまでが扱われることになる。
- 44) 本文の表の番号124, 125, 126, 127は1941年、あるいは1942年に執筆されたものであるといわれている。
- 45) 〈P S O〉の pp. 85-105はまた、〈A D〉 pp. 98-121と一字一句同様のものであり、両者の続き(suite)として、〈P S O〉の pp. 107-131がある。
- 46) 「シモーヌ・ヴェーユの質問に答える」(p. 194) による。
- 47) Ibid; p. 194
- 48) これは1942年5月から同年11月にかけて執筆されたものといわれている。
- 49) この論文の補足として、「ギリシア科学についての夢想」(Rêverie à propos de la Science grecque 〈S S〉 pp. 261-268. 年代不詳)がある。これも頻度として加えておく。
- 50) ここに含まれるのは、〈C II〉の p. 197 からのものと、〈C III〉(pp. 11-292) のすべてである。いいかえると、〈C II〉のうちのⅦとⅧ、〈C III〉のⅧ(suite)からⅪまで全部である。
- 51) これと同様、本文の表の番号162と174は年代と日付不詳のために、推測でしかないことを断ておく。
- 52) [頁数に続く括弧内数字は単語の頻度。単語は記号㉑から㉒で示される。N° は図表内の番号。図表参照。]
- N° 2 ㉑p.18(2).
- N° 3 ㉑p.15, ㉒p.14.
- N° 4 ㉑p.26.
- N° 5 ㉒p.12(2), 13, 17(2), 23,
㉑p.21, 29, 38, 39, 43, 44(4), 46,
60(4), 62(7), 63, 66(2), 70, 77, 94,
97(2),
㉑p.20(2), 50(7), 51(4), 53(2), 54(2),
57, 58, 61, 62,
㉒p.71(2), 84, 88, 92,
㉑p.31, 41, 83(3), 84, 85(5), 87(3), 88(3),
89(6), 90(2), 92, 94, 95(2), 97(2).
㉒p.50, 58.
N° 7 ㉒p.117, 118(3), 119, 120(2), 121(6),
122.
N° 8 ㉒p.125.
N° 9-10 ㉒p.129, 130, 133(2), 134(2),
135, 138(4),
㉑p.126, 129, 130(2), 131, 134, 135,
137(2),
㉑p.132.
N° 11 ㉑p.144(2).
N° 13 ㉒p.148, ㉑p.148, ㉑p.147(2).
N° 14 ㉑p.154(2), ㉒p.153, 154,
㉑p.154(3), 155(3), 156.
N° 15 ㉑p.105(2), 107(3), 108.
N° 16 ㉒p.158, ㉑p.158, 160(2), 161(2),
162(2).
N° 17 ㉒p.164(2), ㉑p.165, 167(2).
N° 18 ㉑p.169.
N° 19 ㉒p.172(3), 174, 175, ㉑p.173, 174.
N° 20 ㉑p.175, 177.
N° 21 ㉒p.182(2), ㉑p.181.
N° 23 ㉒p.187, 188(2), ㉑p.186, 187, 188.
N° 24 ㉑p.192, ㉒p.189(3), 190.
N° 25 ㉑p.44.
N° 27 ㉒p.199.
N° 28 ㉒p.205, 207, ㉑p.207.
N° 29 ㉑p.12(2), 16(2), 21(6), 22(2), 26(2),
29(2), 30(2), 35, ㉒p.13(3), 15, 17,
27, 31,
㉒p.38, ㉑p.37, ㉑p.13, 19, 21(3),
22(5), 23(4), 25(2), 26(4), 27, 28(4),
29, 31(2), 32, 33(8), 34, 35(5), 36
(2), 37(3).
N° 30 ㉑p.157, 159, 163(2), 164(3), 167(3),
168(4), 169, 170(3), 171, 172(2),
188, 190(2), 193, 196, 205, 213
(2), 222,
㉒p.191,
㉑p.105(3), 125(3), 134(2), 135(2),
137, 150, 151, 157, 174, 178, 218,
219(4), 220(2), 229(3), 231(7), 232
(4), 234(9), 235(5), 253, 280, 283(3),

- ①p.108, 214, 273,
 ②p.24(2), 30(4), 31(3), 32(2), 33(2),
 40(5), 41, 53(2), 55(5), 59(3), 64,
 65, 68(2), 69(3), 71(2), 81, 97,
 117, 120(2), 123, 177, 214, 215,
 228, 229, 235(2), 237, 238, 241,
 243(2), 249, 250, 251, 252, 255(4)
 256(2), 260(2), 266(8), 267(6), 269(4)
 (このほかに, affection が35ある。
 それらはp.19, 32(2), 64, 65, 66,
 69, 74, 108, 227, 240, 248(2),
 249(2), 255, 267(6), 268(7), 269(6)
 にある)。
 ③p.129, 237, 238, 240(2), 258, 259,
 ④p.29, 40, 76, 87, 90, 109, 151,
 152(2), 163, 165(3), 166, 167(7),
 171(5), 178(2), 180(2), 181(5), 182
 (5), 183(5), 184(2), 187(3), 188,
 189, 198, 205(2), 207(2), 216, 247,
 250, 261, 271, 277,
 ⑤p.52, 111.
 N° 31 ① p.234, 238(3), ② p.234, 235, 236
 (5), 237(8), 238, ③ p.229, ④ p.233,
 234.
 N° 32 ① p.46, 52, 53, ② p.50(2), 51(3),
 ③ p.53, ④ p.45, 46, 50, 51(4).
 N° 33 ① p.240(2), 241(4).
 N° 34 ① p.242, 243.
 N° 35 ① p.172, ② p.175, ③ p.175(2), ④ p.
 166, ⑤ p.168.
 N° 36 ① p.94, ② p.97, ③ p.87(5), 88, 91.
 N° 38 ① p.60(3), 61, 62, 63, 64, 66, 79
 (4), 80(5), 81(9), 82(4), 84(2), 86(3),
 87(2), 88(3), 90, 91, 96(3), 97(3),
 100, 107(2), 111, 112, 129, 134,
 135, 136, 156,
 ② p.58(3), 59(2), 61(2), 63, 65, 78,
 79(3), 80, 106(4), 113, 141, 153,
 ③ p.61, 84, 85, 152,
 ④ p.57, 59, 109, 119, 128(2), 137,
 139, 149, 153(2), 154,
 ⑤ p.57, 61(3), 62(7), 64, 68(4), 69(3),
 70(2), 71(5), 72(2), 73(5), 74(4), 75
 (3), 76(2), 77(2), 78(2), 81(2), 84, 85,
 86, 89(2), 90(2), 93, 96, 97(2), 99,
 101, 102, 107(2), 108(2), 110(3), 111
 (5), 112, 114(2), 119(2), 120, 122(4),
 123(2), 124, 126(6), 127(2), 131(2),
 132(2), 133(4), 134, 137(6), 138(2),
 139(2), 140(4), 141, 143, 144, 145,
 147, 148, 149, 150(2), 153, 154(2),
 159(3), 160(2), 161(2).
 ⑥ p.97, 110, 113, 132, 133, 137.
 N° 39 ① p.191, ② p.191, ③ p.190(2), p.191
 (5), ④ p.188.
 N° 40 ① p.185(2), ② p.178(2), 179(6), 180(5),
 182(3), 184, 185, ③ p.178, ④ p.180,
 ⑤ p.179(2).
 N° 41 ① p.24, ② p.23(5), 26(2), ③ p.24(2).
 N° 42 ① p.107, ② p.98, 104, ③ p.37, 40(2),
 46, 47, 51(2), 52, 55, 61(3), 78, 86,
 88, 89(2), 90, 92(2), 106(2), 107(2),
 ④ p.35(3), 36, 37(2), 38(2), 39, 40(3),
 41(3), 42, 43(2), 44(2), 45, 46(3), 47,
 49(3), 50, 51, 52(3), 53(3), 54(2),
 56, 61(2), 64(3), 66, 67(3), 69, 72(3),
 73(2), 74, 75, 77, 79(4), 80, 82(4),
 87, 91(2), 94, 101(2), 103, 105,
 ⑤ p.35, 37, 39, 40(2), 41, 49, 50,
 53(3), 60(2), 61(3), 64, 67, 80, 81(2),
 91, 93, 98.
 N° 43 ① p.15, 16(2), 20, 21(3), ② p.15(3),
 16(9), 17(2), 18(2), 20(2), 21, 22,
 ③ p.20.
 N° 44 ① p.29, 30.
 N° 45 ① p.114, ② p.112(4), 113(4), 115(2).
 N° 46 ① p.110, 112, 113(2), ② p.110(2),
 111(3), 112(5), 113(2), 114, 115(3),
 117(3), 118, 119(2), 121(4), 122, 123
 (3), 124(4).
 N° 47 ① p.126(3), 127(2), ② p.128, 129(7),
 131, 132.
 N° 48 ① p.128, 129, 132, ② p.134.
 N° 49 ① p.135, ② p.132, 133(2), 135,
 ③ p.142(2), 143.
 N° 50 ① p.138, 142, ② p.136, 139(2), 141,

- 142(3), 143, ①p.139, ②p.145, 147.
- N° 51 ①p.144(2), ②p.144(3), ③p.145,
④p.145, ⑤p.146, ⑥p.148, 149.
- N° 53 ③p.152, 153, ④p.152.
- N° 54 ④p.154.
- N° 56 ③p.59, 62(2), ④p.57, 58, 61, 62(2).
- N° 57 ①p.247(2).
- N° 58 ③p.394, 395.
- N° 59 ①p.63, 72, ③p.62, 66, 68, 71,
④p.63, 72(2),
⑤p.63 (このほかに affection (p.69)
がある).
- N° 61 ④p.175(2).
- N° 62 ③p.157.
- N° 63 ①p.173, ④p.166, ⑤p.161, 162,
164(2), 168, 170, ⑥p.165(3), 166(3),
167, 173(3), 174, ⑦p.161, 162, 166
(5), 173.
- N° 64 ③p.159, ④p.159.
- N° 65 ②p.209, ③p.211, ④p.210, 215,
216, ⑤p.210.
- N° 66 ②p.249, ④p.249.
- N° 67 ②p.251(2).
- N° 68 ①p.253, ③p.253(3), 254.
- N° 69 ④p.218, 219.
- N° 70 ②p.217(4).
- N° 71 ③p.181, 182, 183, 184(3), ④p.181,
182(2), 183(2), 184(2), ⑤p.182(2).
- N° 72 ④p.185, 186, 187.
- N° 74 ①p.218, ②p.215(2), ③p.229, ④p.
215(2), 217(3), 218, 219(6), 220(6),
221(4), 222(2), 223(10), 224(6), 225(11),
226(9), 227(7), 228, 229(6), 230(9),
231(4), 232(2), ⑤p.232(2).
- N° 75 ①p.337, ④p.337, ⑤p.338.
- N° 76—77 ①p.266, ④p.266(2), ⑤p.268(2),
⑥p.258(2), 268(3).
- N° 80 ①p.236, ②p.236(2), ③p.234(3), 235
(2), 236(3).
- N° 81 ④p.188.
- N° 82 ④p.24.
- N° 83 ①p.198, ③p.197(2), 204, ④p.197,
198(6), 199(2), 200, 201(4), 202, 203
(2), 204(3), 205.
- N° 84 ③p.208(2), 209, 212(2), ④p.208,
209(5), 210(2), 211(3), 212(6).
- N° 85 ②p.325, ③p.324, ④p.325.
- N° 87 ②p.320, 321, ④p.321, ⑤p.321.
- N° 88 ④p.346(2).
- N° 92 ②p.278, ③p.275.
- N° 93 ③p.223.
- N° 94 ①p.355, ③p.352, 354, 355.
- N° 96 ④p.287(2), ⑤p.289.
- N° 97 ④p.279.
- N° 98 ①p.340, ③p.340(2), 341, ④p.340,
341, 342, ⑤p.342.
- N° 99 ①p.108, ④p.107(2), 112, ⑤p.102,
105.
- N° 102 ④p.65.
- N° 103 ③p.290, 291(3).
- N° 104 ②p.298, 305(2), 306(5), ④p.301,
⑤p.297, 299, 302, 308, 309(2), 310,
⑥p.304, 305, 307(2), ⑦p.307.
- N° 107 ②p.362.
- N° 108 ①p.18, ②p.14(2), 17, 54, ③p.52(2),
54, ④p.25, 26, 27(2), 28(2), 34(2),
42, 43, 46(3), 47, ⑤p.16, 17, 24(2),
28(3), 35, 42, 48, 58, ⑥p.28, 52,
⑦p.19, 20, 40(3), 41.
- N° 109 ③p.212, 218, 219(2), 220, 221, 232,
248(2), 249(2), ④p.231, 232, 240,
241, ⑤p.232, 236(4), 237(2), 241(7),
248(4), 249, ⑥p.212(2), 219, 221,
225, 227(2), 234, 256.
- N° 111 ③p.78, 89(3), 105, 115, 120(2), 122,
④p.44, 45, 103, ⑤p.45, 63(2), 73,
74, 77, 83, 90, 91, 101, ⑥p.70.
- N° 112 ②p.110, ③p.77(4), 79(2), 80, 81(3),
82(7), 83(2), 86, 87, 88, 89(3), 90
(2), 91(2), 92(4), 93(2), 95(2), 96(1),
97(5), 98(4), 101(2), 103, 104, 105,
106(3), 107, 108(3), 111, 114(8), 115,
116(3), 126(4), 127(4), 129(4), 132(3),
133(4), 134, 135,
④p.78, 101, 102, 115, 117(2), ⑤p.
77, 102(2), 112(2), 130, ⑥p.104,

- ㊦p.97, 120.
 N° 113 ㊤p.36, 39, 41(2), ㊤p.14(2), 22, 26,
 29(2), 34, 36, 37(2), 39(2), 40(2), 41,
 ㊤p.17, 33, 39, 40, ㊦p.16, 28.
 N° 114 ㊤p.137(2), 138(3), 139(3), 141(5),
 142, 145, 146, 147(2), 148(2), ㊤p.
 147, ㊤p.139, 141.
 N° 115 ㊤p.66.
 N° 116 ㊤p.263(4), 264, ㊤p.265(6), 266(2),
 268(2), ㊤p.270(4), 271, ㊤p.263(4),
 ㊤p.263, 269, ㊦p.261(3), 262(3),
 263, 266(4), 267, 268, 269, 270(9),
 271(4), 272(5), ㊤p.267, 270.
 N° 119 ㊤p.216(2), 217(2), 218(3), 219(4),
 221, 222(2), 224(2), 225, 226(3), 227
 (7), ㊤p.223(2), ㊤p.223.
 N° 120 ㊤p.91, ㊤p.9(2), 11(2), 12(4), 13,
 14(7), 15, 17(4), 18(2), 20(2), 21, 23,
 24(3), 25(3), 26(2), 28, 29(2), 31(3),
 34(5), 35(2), 36(2), 37(4), 39(3), 40,
 41, 44(5), 46(3), 47(2), 48(4), 53,
 54, 55(3), 56, 57(3), 58, 59(3), 60,
 62, 64(2), 65, 66, 68(2), 69(3), 70,
 71(4), 72(4), 73, 74, 75(2), 77, 80,
 81(2), 83(3), 85, 86(2), 88, 89, 90,
 91(4), 92(6), 93(3), 94(2), 103(4), 105
 (3), 106(3), 107, 110(2), 113, 115,
 117(2), 118, 119(4), 120, 121, 125,
 126(2), 127(4), 128(9), 129(2), 130(6),
 131(4), 132(4), 133, 134, 135(2), 137
 (1), 138(6), 139(4), 140(2), 141(3),
 148(4), 150(2), 151(9), 152(7), 153(3),
 154(2), 155(2), 157, 158, 159, 161(5),
 162(4), 163(5), 164(2), 165(9), 166(3),
 167(5), 168(2), 169(4), 170(5),
 ㊤p.16, 17, 38, 45(2), 46, 55, 56, 62,
 72, 77(2), 92, 94, 95, 97(2), 102,
 104, 105(3), 127, 144, 145, 148(5),
 157, 164(2), 167(3), 168(5), ㊤p.23(3),
 44, 53, 126, 142, 145(2), 157, 158
 (2), 161, 166, 168(2), 169 (このほかに,
 affection が, p.36, 136にある),
 ㊤p.38, 124, 154, 169, 170, ㊦p.24,
 62, 73, 100(2), 144, 161, 165, ㊤p.
 14, 145(2).
 N° 121 ㊤p.179(3).
 N° 122 ㊤p.153, 156, ㊤p.154, 155, 156,
 158, 159(2), ㊤p.151, ㊤p.160.
 N° 123 < C I > ㊤p.17, 42, 61, 67, 85, 89,
 152, ㊤p.85, 87, 88(3), 109, ㊤p.36,
 69, 74, 94, 112, 114, 118, 129,
 134(6), 135(5), 136(3), 151, 169(3),
 172, 176(2), 203(2), 206(2), 214, 225,
 226(2), 229(6), 230, 231(3), 232(2),
 233(2), 243, 250(3), 255, 256(5), 257,
 258(8), 261(2), 264, 268(2), 269(2),
 271, 274, 275, 288, ㊤p.12, 41, 42,
 50, 53, 56, 58(2), 73, 75, 76, 93(2),
 94, 95(7), 96(10), 111, 113, 136(2),
 161, 165, 203, 209, 218, 226(3),
 234, 239(2), 243, 266, 272(6), 274(3),
 ㊤p.13(3), 18(2), 30(2), 41(2), 68, 69,
 70(2), 73, 94, 97, 102, 106, 107(2),
 108, 130, 146(3), 154, 156, 160(2),
 165, 173, 189, 194, 202, 203, 210,
 212, 236(2), 241, 243, 252, 253,
 258, 260(2), 275, 279(3) (このほかに
 affection がp.176にある),
 ㊤p.69, 128, 130(2), 185, 208, 210,
 ㊤p.13, 14, 15, 16(2), 17(2), 18(2),
 19(2), 20(6), 23, 24(3), 26, 27(3),
 28, 29, 30(4), 31(4), 33, 35, 36,
 37, 38(3), 39, 61, 63(2), 64(6), 65(2),
 68(3), 70, 71(4), 72(2), 76, 80, 81(2),
 84(2), 85(2), 86(2), 87(7), 88(2), 89(2),
 97, 98(6), 99(8), 100(5), 103, 109(7),
 113, 132(2), 133, 156, 178, 186,
 201, 202(6), 203(3), 222, 226, 231(2),
 251(3), 252, 259, 264(3), 265(3), 275,
 278(2), 279, ㊤p.76, 81, 97, 130,
 202(2), 220, 222(2), 225, 226(2), 227,
 230, 234, 240(3), 261, 278(3),
 < C II > (p.195まで) ㊤p.13(2), 14, 17
 (6), 19, 20(2), 24, 29, 30, 43, 44,
 47(2), 48(4), 58(2), 59, 60(2), 62,
 64, 66, 67(3), 68(6), 69(5), 70(5), 72

- (5), 75, 82, 83, 84(2), 85(4), 89(2), 90(3), 92, 93(3), 94, 95(4), 99(6), 101(3), 102(2), 103(2), 108(4), 109(7), 110(4), 111, 112(2), 113(3), 114(3), 116(4), 117(2), 118(2), 119(9), 120(2), 121, 122(3), 123(4), 124(2), 125(3), 126(7), 127(3), 128(3), 129(2), 131(3), 132(2), 133(5), 134(4), 136(2), 137, 139(3), 140(3), 141(3), 142, 147, 148(3), 149(6), 150(2), 151(5), 154(4), 155, 156, 157(5), 158(2), 159(2), 160(9), 161(4), 162(3), 163(6), 164(9), 165(5), 166(3), 167, 170(5), 171(2), 172(5), 174(5), 175(2), 176(7), 178(4), 179(3), 180(5), 181(5), 182(4), 183(10), 184(3), 185(2), 188(3), 189(4), 191, 192, 193(5), 194(2), ①p.20(3), 22(2), 23(4), 25(2), 26(6), 27(4), 30, 46, 68, 82(3), 86, 87(2), 96(4), 103, 106, 111, 112(5), 114, 121(3), 127(2), 130(3), 138(2), 147(5), 150(3), 152(2), 154(2), 157, 158, 159, 163, 170, 171(6), 172, 176, 178, 180(5), 182, 183(6), 184, 192(3), ②p.22(3), 24, 26, 27, 43(2), 44, 46(4), 49, 52, 53, 57, 67, 79(2), 80, 82, 106(2), 110(2), 113, 115(2), 132, 144(3), 159, 163(2), 168, 171(4), 175, 180(2), 181(2), 183, 189(3) (このほかに, affection が p. 177 にある), ① p. 19, 39, 106, 110(2), 112(3), 129(2), 130, 165(2), 180, 185(2), 189(2), 192(2), ③p.11(2), 12(2), 13(2), 15(2), 24, 37(3), 38(2), 39(2), 40(2), 41, 42(6), 43(7), 44, 50, 62(7), 66, 74, 76(2), 80, 83(2), 97, 100, 104, 114, 144, 162, 166, 169, ④p.18, 22(2), 23, 39, 43, 51(4), 58, 99(2), 146, 175.
- N° 124 ⑤p.269.
- N° 125 ⑥p.271.
- N° 126 ⑦p.275(3), 277, ⑧p.279(2), ⑨p.275.
- N° 127 ⑩p.73.
- N° 128 ⑪p.13, 14(2), 15(3), 16, 17, 18(4), 19, 21, 22(4), ⑫p.16(2), 17.
- N° 129 ⑬p.24(5), 25.
- N° 130 ⑭p.44, 45.
- N° 131 ⑮p.21, 22(2), 24, 26(3), 27(3), 29, 30, ⑯p.32(2), ⑰p.28, ⑱p.21, 22(2), 24(2), 25(4), 26, 27(2), 28(5), 29, 30(2).
- N° 132 ⑲p.35(5), 36(8), 37(11), 38(4), 39(5), 40(6), 41(4), 42(8), 43(3), 44(7), ⑳p.35, 36, ㉑p.43.
- N° 133 ㉒p.47(5), 48(6), 49(4), 50, 52, 54(5), 55(5), 56(2), 57(4), 58, 59(4), 60, 61(2), 62.
- N° 134 ㉓p.179, ㉔p.178, 179(4), 180.
- N° 135 ㉕p.85(3), 86(2), 91(3), 96(3), ㉖p.97, ㉗p.90, 92, ㉘p.91(4), ㉙p.90, 92(4), 95(2).
- N° 136 ㉚p.112, ㉛p.88(2), 89(3), 90, 91, 92(7), 93(5), 94(6), 95(7), 96(5), 97(3), 98(2), 99(6), 100(2), 101(4), 102(10), 103(3), 104(4), 105, 108, 109, 111(6), 115(3), 116, 121(3), 122(4), 123(9), 124(3), 125(2), 126, 127, 129(9), 130, 131(2), ㉜p.85(6), 86(4), 87(8), 88(5), 89(7), 90(4), 91(10), 92(4), 93(4), 94(2), 96, 101(2), 104(3), 107(7), 108(5), 111, 112, 113(10), 114(9), 116(9), 117(5), 118(7), 119(2), 120(6), ㉝121(5), 122(7), 123(7), 124(11), 125(5), 127(2), 128(3), 129, 130(5), 131, ㉞p.98, 101, 102, 109, 113, 115, 128, ㉟p.90(2), 101(2), 112(2), 126, 130, ㊱p.126, ㊲p.100, 127.
- N° 137 ㊳p.122(9), 123(2), 125, 128, 131(10), 132, 133, 134, 136(2), 137(8), 138(14), 139(3), 140, 143, 145(4), 146(2), 147(3), 151, 152(3), 153(4), 154(4), 156, 158, 160, 161, 163(2), 164, 166, 167, 168, 170, 171, 172(4), 173(2), 175(5), 176(3), 179, 182, 183(3), 185, 187, 188, 190(2), 191, 192(2), 193, 194, 197(2), 200, 202, 204, 207(3), 208(3), 209(2), 210(3), 211(7),

- 212, 213(4), 214(7), ㊦ p.125, 132, 133(2), 134(2), 135(2), 138, 141(2), 142, 144(2), 145, 151, 152, 153, 165(2), 169(2), 173, 174, 175, 186(2), 187(2), 188, 196, 198(2), 202(3), 204, 209, ㊧ p.126, 147(3), 148(2), 150, 152, 158, 162, 164, 185, 195.
 (このほかに, affection が17ある。それらは p.200, 201(2), 202, 203(2), 204, 205(3), 206(7)にある), ㊨ p.148, 151, 153(2), 154, 159, 213, ㊩ p.161(2), 194, 212, ㊪ p.161, 191(2).
- N° 138 ㊫ p.230, 231(3), 233(3), 234, 235(5), 237, 238(2), 242, 243, 244(3), ㊬ p.243, ㊭ p.234.
- N° 139 ㊮ p.9(3), 10(1) (ただし, これらは代名詞である)
- N° 140 ㊯ p.72(3).
- N° 141 ㊰ p.32, ㊱ p.31.
- N° 142 ㊲ p.74, 78, 79, 81(2), 82, ㊳ p.75(4), 76(4), 78(2), 80, 81, 83(4), ㊴ p.79, 80, ㊵ p.82, ㊶ p.80.
- N° 143 ㊷ p.60, ㊸ p.36(2), 37(2), 40, 45(4), 46(3), 47, 49(3), 50, 51(2), 52(3), 53, 56, 57(2), 58, 59(2), ㊹ p.38, 41(4), 42, 43, 54, 62, ㊺ p.46, 50, 54, 57, 60(2) (このほかに affection が p.50にある), ㊻ p.38, 54, 56, ㊼ p.48, ㊽ p.42.
- N° 144 ㊾ p.65, 66(2), ㊿ p.63, 64(3), 65, 66.
- N° 145 ㊽ p.68(2), 69(4), 70(5), 71(2), 72(2), 74, 75(3), 77, 79(3), 80(7), 81, 82, 83, 84(3), ㊿ p.69(5), 70(2), 72, 77(2), 82, ㊽ p.84.
- N° 146 ㊽ p.14, 15(2), 16(3), 17(3), 19, 21(4), 22, 23(3), 24, 25(2), 26(6), 27, 28(2), 30(2), 31(4), 32(7), 33(3), 34(4), 35(3), 36(2), 37(2), 38, 39(6), 40(3), 41(5), 42(4), 43(2), 44(3), 45(2), 46(3), 47(2), 48(9), 49(9), 50(4), 51(2), 52(4), 55, 56(4), 57(4), 59(6), 60(6), 61(5), 62, 63, 64(4), 65(6), 66(4), 67(3), 68(4), 69(6), 70(6), 71(4), 72(7), 73(4), 74(5), 75(5), 76(6), 77(1), 78(3), 79(4), 81(3), 82(2), 83(4), 86(8), 87(8), 88(6), 90(9), 91(3), 92(4), 93(3), 94(4), 95(9), 96(9), 97(8), 98, 99(2), 100(3), 101(6), 102(8), 103(4), 104(4), 105, 106(6), 107(7), 109(7), 110(2), 113(4), 114(2), 115, 116, 117(4), 127, 128, 129(3), 130(5), 131, 132(6), 133(3), 135, 142(2), 144, 146, 148, 149(3), 150(2), 155(2), 156, 157(6), 159(3), 160(7), 161(6), 163(3), 164(3), 167(1), 168(4), 169(5), 170(1), 171(8), 172(3), 173(2), 175(5), 176(4), 177, 179(4), 182(4), 183, 188, 190(4), 191(5), 192, 195, 196, 197(2), 198, 199(4), 200(3), 201(5), 204(2), 205(8), 207, 209(3), 212(4), 214(3), 215(7), 216, 217(2), 218(3), 219(4), 220(3), 221(4), 222(7), 223(4), 224, 225(9), 226(9), 227(4), 228(5), 229, 230, 231(5), 232(7), 233(3), 235(3), 236(4), 238(5), 239(6), 242(2), 243, 245, 246(4), 247(3), 248(3), 249(2), 251(5), 252(3), 253(6), 254, 255(4), 256(2), 258(2), 261(2), 262(8), 263(8), 264(4), 266, 267(1), 268(3), 269, 271(6), 272(4), 273, 274(2), 275(2), 277(5), 278(4), 280(6), 281(8), 282, 283(4), 286, 287, 289(3), 290(3), 291(4), 292, 293, 294(6), 296, 297(4), 298(7), 299(4), 300, 301(4), 302(4), ㊽ p.14(3), 16, 26, 27, 33, 35, 36(2), 39(4), 40(2), 42, 48, 78, 85, 89(2), 92, 101, 104(5), 126, 127, 132(2), 149(2), 155, 166(2), 167, 198(2), 203(3), 216, 221, 223, 225, 231, 246(2), 258, 282, 287(5), 288(4), 296(4), 297(8), 298(3), 300(2), ㊽ p.13, 16, 31, 35(2), 43, 80, 90(3), 102(2), 111, 149, 165(6), 166, 167, 192(3), 203(7), 204, 219, 251, 264, 267, 282 (このほかに, affection が6ある。それらは p.216, 217, 250(4), にある), ㊽ p.19, 49,

- 71(2), 104, 166, 177, 192, 205, 281, 287(3), ㊸p.14, 29, 41(4), 45(2), 61, 108, 112, 113(3), 126(2), 217, 228, 229(6), 230, 250, 252, 301, 302(2), ㊹p.33, 111, 112, 165, 177, 194.
- N° 147 ㊸p.248, ㊹p.241(3), 242, 251(5), 252(2), 258, ㊺p.242(2), 244, 246, 250(4), 251(3), 252, 253, 254, 255, 257, 258, ㊻p.242(2), 243(2), 244(6), 245(5), 246(3), 247(5), 249(2), 250(2), 253(5), 254(2), 255(3), 256(3), 257(4), 258, 259(2), ㊼p.252(2), 254.
- N° 148 ㊸p.202(2), 203(2), 204(4), 213, 214 (2), ㊹p.185, 198, 199, 210(2), 213 (3), 214, ㊺p.186, 196, 198, 200, 204(3), ㊻p.211, ㊼p.186, 196(2), 213 (2), ㊽p.212, 213(2).
- N° 149 ㊹p.78, ㊸p.76(3), 77(5), 80(2), 82, ㊹p.78, 83, ㊸p.81, ㊻p.75, ㊼p.82.
- N° 150 ㊸p.67(2), ㊹p.67, 68, ㊸p.70(3), 71(3).
- N° 151 ㊸p.66, ㊹p.86, ㊸p.11(3), 12, 13(3), 15(2), 16(3), 17(2), 18, 19, 20, 22(4), 23(3), 24(2), 28, 30, 35, 36(3), 37(2), 38, 39(3), 40(2), 42(3), 43(2), 45, 50, 52, 54(3), 55(2), 58(4), 59(2), 60, 63, 65, 67(2), 68(2), 70, 71(2), 72, 73(2), 74, 75(2), 91, ㊹p.16(3), 37, 54(2), 55, 68(2), ㊸p.14, ㊼p.83, 88.
- N° 152 ㊸p.159(3), 160, 165(3), 166(5), 167, 180, ㊹p.154, 158, 160(3), 168, 174 (4), ㊸p.179, 182 (このほかに, affection が p.162にある), ㊹p.171(2), 175(2), ㊼p.154, 157(2), 159, 160.
- N° 153 ㊸p.305, 306, 308(4), 309(4), 310(6), 311(2), 312(3), 313, 314(2), 316(6), 317, 318(2), 319(2), 320(2), 322(6), 323(3), 324(2), 325, 326(2), 328(3), 329(4), 330(6), 331(2), 332, 333(5), 334, 335(2), ㊹p.306(2), 307(2), 312, 336, ㊸p.334, 336, 337, ㊼p.307(2), 316(2), 331(2), ㊽p.317.
- N° 154 ㊹p.247, ㊸p.219, 224, ㊻p.247, ㊼p.221, 224(5), 225, 226, 227, 230(2), 232, 234, 236(2), 237, 239, 252, ㊽p.230.
- N° 155 ㊸p.24, 50, 91, 118, 124, ㊹p.22, 49, 51, 53, 96, 98(4), 100(2), 101, 105, 107, 110, 144, 152, 166, 167 ㊸p.83(2), 85, 103, 109, 112, 116, 117(5), 124, 129, 137(3), 161, 172, 175(2), 193(3), 194, 198, 199, 211(3), 212(2), 213, 214, 222, 223(4), 224(2), 225(3), 226(3), 227(2), 228, 229(7), 230(2), 231, 233, 234, 235(8), 236(6), 237(4), 238(5), 239(6), 240(10), 241(3), 242(2), 243(2), 244(5), 246(2), 247(3), 249, 252(3), 254(3), ㊹p.25, 28, 35, 52, 53(6), 59, 61(3), 67(2), 68, 72, 79, 87(3), 101, 106, 121, 146, 149 (2), 150(3), 151(2), 152(2), 154, 170, 184(3), 188(3), 194, 196, 200, 231, 232, 237, ㊸p.16, 19, 25, 26(2), 36 (2), 37, 54(2), 58(2), 74(2), 80, 82, 91(2), 92, 93(4), 94(3), 97, 99, 101 (2), 107(2), 108(2), 111, 113, 114(3), 118, 127, 129, 130, 131, 134(2), 135, 143(4), 144(2), 147(2), 148(2), 150, 151(2), 154(2), 155(5), 166, 168 (2), 177, 178(3), 179, 187, 189, 194, 209, 212, 237 (このほかに, affection が 4 ある。それらは p.108, 113, 179, 180 にある), ㊻p.64(2), 80(2), 152, 193, ㊼p.36, 37(2), 46, 53, 54(4), 57(2), 58, 59(5), 66(2), 69(2), 70, 71 (4), 72(2), 75, 76, 77(4), 80(3), 85 (4), 86(7), 87, 88(2), 89(2), 90, 110(4), 184, 219, 225, 247, 249(2), 251(6), 252(2), 254(3), 255(6), 256(7), ㊽p.63, 64, 85(2), 131(2), 180, 181, 218.
- N° 156 ㊹p.193, 196, ㊸p.196, ㊹p.201, 203, ㊼p.188, 189(2), 190(3), 191(2), 199 (2), 201(3), 206, 207(3).
- N° 157 ㊸p.162(3), 164, 167(6), 168(8), 172 (2), ㊹p.172.

- N° 158 ©p.123, 146(2), 172, 174(3), 266(4),
 ㊦p.131, 142, 170, 175, ㊧p.151,
 ㊨p.159, ㊩p.124, 125(4), 126(7),
 127(2), 128(2), 129, 131, 134(2),
 135, 144(4), 147, 149, 159, 170(6),
 172, 174(2), 175, 262(2), 265.
- N° 159 ©p.47, 55, ㊦p.49, 50, 51(2), 52,
 54, 55(2).
- N° 160 ㊦p.14, ©p.13, 16(4), 19(2), ㊦p.13,
 19, ㊧p.17(2), 18(2), 19(3).
- N° 161 <C II> (pp.197-339) ㊦p.259, 318
 ©p.199, 202(2), 204, 205(2), 206,
 207, 209(4), 210(3), 211, 214(3),
 215, 216, 217(4), 218, 219(2), 222
 (3), 224, 226(3), 228(3), 231(7), 232
 (4), 233, 235(4), 236(2), 237(2), 238
 (2), 239(2), 241(9), 243(2), 244(6),
 245(2), 246, 248(5), 249(4), 250(3),
 251(1), 252(6), 253(1), 254(2), 257(3),
 261, 262, 264, 267(7), 268(8), 270(7),
 271(3), 273(3), 274(7), 275, 276(2),
 284(2), 286, 287(4), 288(6), 290, 291,
 292, 293, 294(2), 295(7), 296(9), 297
 (4), 298(6), 299(1), 300(9), 301(4),
 302(6), 303(5), 306, 307(2), 308, 310
 (2), 311(2), 312, 313(7), 338(2), 339
 (5), ㊦p.199(3), 201(6), 203, 205,
 219(2), 220(4), 221, 223, 233, 246
 (5), 248(7), 251(5), 252(3), 261(4),
 266, 277(4), 290, 304(2), 337, ©p.
 202, 205(2), 216, 229, 234(3), 236,
 249(2), 256, 269, 275, 276(2), 298,
 317(2), ㊦p.201, 225(2), 231, 252,
 ㊧p.208(2), 209, 229, 275, 288, 289,
 304, ㊨p.275,
 <C III> ㊦p.238, 247, 275, ㊦p.15,
 190, 238, 254, 255, 256(3), ©p.11
 (3), 12(5), 13(10), 14, 15(6), 16(4), 17
 (5), 19, 22, 24(2), 25(6), 26(3), 28(5),
 30, 32(6), 33(7), 36(3), 37(2), 38, 39
 (4), 40, 42, 44, 45(4), 48(2), 49(2),
 50(4), 51(3), 53(2), 54(3), 55(3), 56
 (2), 57(2), 58(3), 59(2), 60(3), 61(3),
 63(6), 65, 67(4), 68(3), 69(2), 71, 72
 (3), 73, 74(5), 76(3), 77(3), 88, 89
 (3), 90(3), 94, 95(2), 96(3), 97(2), 98
 (2), 99(4), 101, 106, 107, 108(2),
 110, 111(6), 112(2), 113, 117, 118,
 119(2), 120(3), 122(2), 123(2), 124(3),
 125(2), 126(3), 127, 128(5), 129(2),
 130(5), 131, 133(6), 134(2), 135, 136
 (3), 137, 138, 142, 144, 145(9), 146,
 151, 152(2), 156(8), 157, 158(3), 160,
 161, 162, 165(5), 166(4), 168(2), 169
 (2), 170(3), 175(6), 176(4), 177, 178(2),
 179(4), 180(3), 182(4), 184(3), 185(2),
 186, 192, 199(3), 200(6), 201(2), 203
 (3), 204(9), 206, 207, 208, 209(4),
 210(4), 212(4), 213(4), 214(2), 216(2),
 221, 222(3), 223, 224, 225(2), 226(3),
 227(3), 229, 230, 231, 233, 235,
 238(2), 245, 246, 247, 248(2), 249(2),
 252(3), 254, 256(2), 257(3), 258(5),
 260(6), 261(2), 262(2), 263(9), 265,
 266(3), 267, 269, 270(3), 271(2), 273
 (2), 274(6), 275(3), 283(2), 284(2),
 288, ㊦p.13, 15, 28(2), 34, 39, 50
 (3), 54, 72, 87(2), 108, 111, 151,
 212, 214, 216, 219, 238, 274, 288,
 ©p.19, 24(4), 25, 38, 49, 58, 77,
 125, 175, 194, 203, 225, 232, 243,
 247(3), 252, 268 (このほかにも, af-
 fection が p.223にある), ㊦p.30,
 40(2), 88, 259, 268(3), ㊧p.13, 59,
 125(2), 129, 183, 184, 193, 195(2),
 197, 233(2), 238(3), 239(8), 243(2),
 ㊨p.183, 233, 239.
- N° 162 ㊦p.197, 198(5), 202(3), ㊦p.196(4),
 198(5), 199, 201(4), ©p.195, ㊧p.
 197(3), 198, 199, 200(2), 202(4), ㊦
 p.197.
- N° 163 ㊦p.247, 251, 253, ㊦p.227, 241(3),
 242(6), 253, ©p.227(2), 230, 236,
 ㊦p.237, 239, ©p.227, 235, ㊧p.
 223(2), 224, 235, 238.
- N° 164 ©p.38(2), 39, 42, 43(2), ㊦p.28, 29

- (3), 30(2), 32(2), 34(4), 35(4), 36(3), 37(4), 41, ㉔p.20(2), 22, ㉕p.22(4), ㉖p.23.
- N° 165 ㉗p.47, 53, ㉘p.47(3), 48(6), 49, ㉙p.52(2), ㉚p.54(3), ㉛p.53(2).
- N° 166 ㉜p.58(2), ㉝p.64, 65, 68, ㉞p.58, 59(2), 60(2), 61, 67, 69, ㉟p.73.
- N° 167 ㊱p.83(2), ㊲p.77(3).
- N° 168 ㊳p.86(2), ㊴p.86, ㊵p.88.
- N° 169 ㊶p.94, 96.
- N° 170 ㊷p.98, 103(3), 106, ㊸p.99, 100, 104(2), 108, ㊹p.103, 104.
- N° 171 ㊺p.110, 114, ㊻p.109, 111, ㊼p.115 ㊽p.114, 120, ㊾p.121, 122.
- N° 172 ㊿p.141, ㊽p.133, 135, 139, 147, ㊾p.140, 146, ㊿p.140.
- N° 173 ㊽p.365, ㊾p.364, 370, ㊿p.374, 375, 377, ㊽p.371, 376, 377, ㊾p.370(2), ㊿p.370.
- N° 174 ㊽p.137(9), 138(4), 139(4), 140, 141 (3), 142(2), 143, 144(2), ㊾p.141, ㊿p.139, ㊽p.143, 144.
- N° 175 ㊽p.149, 151(2), ㊾p.151.
- N° 176 ㊽p.208, 211, 213, ㊾210, 213, ㊽p.208, 211, 214(2), 217, 218, ㊿p.220, ㊾p.212(3), 220.
- N° 177 ㊾p.217(2).
- 53) <E> (N° 155) に「革命」という単語が19出てくるが、そのうち16までが「フランス革命」として捉え得る。この場合、語頭の文字は大文字である(以下同じ)。 (N° 163) は11のうち、1がフランス革命、<EL> (N° 171) は2すべて、<EHP> (N° 173) は2すべて、 (N° 176) は2すべてがフランス革命をさ

す。ただ、N° 155とN° 163の残りは小文字ではじまる「革命」となるし、ここでは取り上げなかったが、『マルクス主義の矛盾について』 (N° 162) に出てくる「革命」もまた、その14すべてが小文字ではじまるものになる。本文に取り上げなかったのは、註51に断っておいたように、その作品の書かれた年代や日付が不詳のために、それを推測して掲げるしかなかったからである。しかし、これらの作品に使用されて小文字ではじまる「革命」が果たしていかなる内容をもつものになるか。今はそれを問う余裕がないので割愛するが、たとえば、彼女が革命を叫んでいるという内容に捉え得るならば、『マルクス主義の矛盾について』という作品は、少なくとも、もっと若い年代に書かれたそれに属することになりはしないかとだけいっておくことができる。いかなる内容か調べる必要がある。そして、このことは他の単語についてもいえるのである。こうして、この図表は、本文にも記したが、年代の若い作品に出てくる同じ単語を、その後の年代の作品へと克明に追いかけてさせることを可能にする、ひとつの資料になり得ると思うのである。

54) <情念>の順序と枚挙は以下ようになる。
「驚き」/「尊重」と「軽視」、 「高邁」と「高慢」、 「謙遜」と「卑屈」/「尊敬」と「輕蔑」/「愛」と「憎しみ」/「欲望」/「希望」「懸念」「執心」「安心」「絶望」/「不決断」「勇氣」「大胆」「負けぎらい」「臆病」「恐怖」/「内心の不安」/「喜び」と「悲しみ」/「嘲り」「羨み」「憐れみ」/「自己に対する満足」「後悔」/「好意」と「感謝」/「憤慨」と「怒り」/「誇り」と「恥」/「いや氣」「残りおしさ」「うれしさ」(『デカルト』(世界の名著)野田又夫訳,中央公論社 pp.443-446)。

55) Ibid ; p. 479.